

ジャンプキャラ同士で掛け合いしてみた＊会話もあり

单路な暖炉

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

少年ジャンプキャラ同士で掛け合いでみたらどうなのかなと思
い、想像が膨らんだ結果を書いてみました。自己満足かつ初投稿で
す。

??ただいまリアルが忙しいので投稿が遅れます。申し訳ありま
せん

注意

・クロスオーバーもの苦手な方はブラウザバックをお願いします
・あくまで会話ではなく掛け合いで。ゲームの様な感じと考えて
いただければ幸いです

※2017/12/25 に会話シリーズも出しました。

- ・主要キャラクターをメインに考えています
- ・ネタバレになるセリフもござります。ご了承ください
- ・中の人ネタもあります。ご了承ください
- ・基本的に完結している作品を軸にして考えています
- ※ワールドトリガーなどの例外もあります
- ・話数に関係なく投稿する場合があるので新しく投稿したものには
☆マークを付けるようにします

目 次

週刊少年ジャンプキャラ掛け合い

ワールドトリガーの場合

To Loveる——とらぶる——の場合

・To Loveる——とらぶる——の場合 + α

幽☆遊☆白書の場合

SKET DANCEの場合

BLEACHの場合

・BLEACHの場合 + α

黒子のバスケの場合

・黒子のバスケ + α

魔人探偵脳噛ネウロの場合

ぬらりひよんの孫の場合

北斗の拳の場合

るろうに剣心——明治剣客浪漫譚——の場合

べるぜバブの場合

・べるぜバブの場合 + α

斎木楠雄のΨ難の場合

ジョジョの奇妙な冒險 第1部・第2部の場合

ジョジョの奇妙な冒險 第3部・第4部の場合

ニセコイの場合 めだかボックスの場合

ムヒヨとロージーの魔法律事務所の場合

BLACK CATの場合

トリコの場合

地獄先生ぬくべの場合

銀魂の場合

暗殺教室の場合

遊戯王の場合

家庭教師ヒットマンリボーンの場合

シャーマンキングの場合 ☆

断章

クリスマスについて各々会話してみた

正月にて各々会話してみた

クラス担任を殺すため・始

クラス担任を殺すため・中

クラス担任を殺すため・終

195 187 178 158 147

142 137 132 127 122 117

週刊少年ジャンプキャラ掛け合いで
ワールドトリガーの場合

・キャラクター

・空閑 遊真

・三雲 修

・雨取 千佳

『空閑 遊真の場合』

1

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

『貴様も他人のスキルをコピーできるのか！』

空閑 遊真

『めだかちゃんもか、俺たちにたものどうしだな＝3＝』

空閑 遊真

『アンタ、まるで四ツウソ“みたいだね』

球磨川 襟（作品：めだかボックス）

『『僕の存在そのものが嘘みたいなものだからね。』』

空閑 遊真

『周りからチビ助つて呼ばれているのか、大変だな＝3＝』

越前 リヨーマ（作品：テニスの王子様）

『・・・アンタのこと言えんの？』

2

空閑 遊真

4

『オガが使つてる印はどんな効果があるんだ?』

男鹿 辰巳（作品：べるぜバブ）

『オウよ！付けて殴れば、大爆発だ！』

5

空閑 遊真

『カグラはチキンカレーとか作れるのか？』

神楽（作品：銀魂）

『カレーなんて高級品頼むんじゃないネ！たまごかけごはんでも
食べてるがヨロシ！』

《三雲 修の場合》

1

黒子テツヤ（作品：黒子のバスケ）

『僕は影です。味方のサポートをします。』

三雲 修

『僕もそういう戦い方のほうが得意ですよ。』

2

三雲 修

『僕は人より劣つていて、だからその分努力しなきやいけないん
です。』

緑谷 出久（作品：僕のヒーローアカデミア）

『その気持ちよくわかるよ。僕も“持つていない”人間だから。』

3

日向 翔陽（作品：ハイキュー!!）

『三雲はチビでもバカにしないんだな、』

三雲 修

2

『小さくてもすごい人達が周りにいるから・・かな。』

4

三雲 修

『よろしくお願ひします。志村先輩、』

志村 新八（作品：銀魂）

『こちらこそ、よろしく・・・・・・・・・・つて、オイ誰だ今地味コンビって言つた奴!!』

5

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『君に暗殺の才能はない、ただ他に素晴らしい才能があります。その才能を伸ばしていけば君のやりたいことに繋がると思いますよ』

三雲 修

『ありがとうございます。何だか僕の師匠みたいですね・・・・・い、いえ外見ではなくて、』

『雨取 千佳の場合』

1

孫 悟空（作品：DRAGON BALL）

『オメエ今の攻撃すげえなあ！もつかいやつてくれよ！』

雨取 千佳

『ええ～つと、手から出せる方が十分すごいと思いますよ。』

2

雨取 千佳

『私・・・人を打つことが出来ないんです・・・』

沢羽 ?（作品：シティハンター）

3

『それでいいさ、人には向き不向きがあるからな・・・』

3

ヤミ（作品：T O L O V Eるーとらぶるー）

『私は昔、敵から追われてばかりでしたが、今は驚くくらい平和に過ごしていますよ。』

雨取 千佳

『そう・・・ですね、私もみんなのおかげで昔より平和に過ごせています！』

4

雨取 千佳

『友達をどうしても助けたいんですけど・・・』

うずまき ナルト（作品：N A R U T Oーナルトー）

『どんな時も諦めない！、それさえあれば大丈夫だつてばよ！』

5

雨取 千佳

『私の師匠は体を鍛えていて、料理が上手くて、強くてすごい人なんですよ！』

斎木 楠雄（作品：斎木楠雄のΨ難）

『そいつコツチだと変態で変態で変態だぞ、おつとこれは中の人のことか』

To Loveーとらぶーの場合

- ・キャラクター
- ・ララ・サタリン・デビルーク
(セリフ時には“ララ”と略させていただきます)
- ・イブ（金色のヤミ）
(セリフ時には“ヤミ”とさせていただきます)

・西園寺 春菜

注意：To LOVEーとらぶー・ダークネスからのセリフもあります

《ララ・サタリン・デビルークの場合》

1

神楽（作品：銀魂）

『よつしやあ!! 宇宙人娘の力見してやるアル!!』

ララ

『うん！ 女の子は弱くないってどこ見せつけなきやね！』

2
ララ

『銀さんが女の子になつたらどうなるんだろう？』

坂田 銀時（作品：銀魂）

『いや、やめようつてややこしくなるだけだつて！ 中の人的に！』

3

則巻 アラレ（作品：Dr. スランプ アラレちゃん）

『もし、壊れてもあんたが直してくれるのお？』

ララ

『任せて！ついでに口ケットパンチも付けてあげよっか！』

4

ララ

『私は料理にダークマターを入れてるよ！でも、みんなはこの味嫌いなんだって…おいしいのになあ…』

幸平 創真（作品：食戟のソーマ）

『ダークマターか…ゲテモノ料理の幅が増えるな！なあ、その調味料俺にもくれないか！』

5

ララ

『私、リトのことが大好きなんだ！』

桐崎 千棘（作品：ニセコイ）

『よ、よくそんなにハツキリと言えるわねララちゃん。//』

《イブ（金色のヤミ）の場合》

1

ヤミ

『あなたも髪を武器にして戦うんですね。』

ニッチ（作品：テガミバチ）

『…似てるからってラグの相棒は譲らないからね！』

2

キルア＝ゾルディック（作品：HUNTER×HUNTER）

『周りが温かいと、こっちの心まで温かくなっちゃうんだよね。…例えそれが暗殺者でも。』

ヤミ

『その気持ちよくわかります。私もある町の人達の温かさにやら

れました。』

3

ヤミ

『実家が和菓子屋と聞きましたが、たい焼きはありますか?』

小野寺 小咲（作品：ニセコイ）

『あると思うけど、たい焼きが好きなんだね。』

4

モンキー・D・ルフィ（作品：ONE PIECE）

『お前つて色々変身できるんだろ！すっげ～！
なあ、何かに変身してくれよ！』

ヤミ

『腕が伸びるのも十分すごいと思いますよ・・・』

5

ヤミ

『私は自分の生き方をちゃんと見つけましたよ、クロ。』
トレイン＝ハートネット（作品：BLACK CAT）
『俺ももう自分の生き方は見つけてるぜ、お姫ちゃん・・・
・・・じやねえんだつたな、ややこしいな・・・』

《西連寺 春菜の場合》

1

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬくべ）

『君から微かに幽霊の気配を感じるんだが・・・』

西連寺 春菜

『ゆ、幽霊!・・・・あ、友達に幽霊の子がいます・・・』

2

赤羽 カルマ（作品：暗殺教室）

『また、新しい薬品作つてよ、今度はもうちょい持続的なやつで・・・』

西連寺 春菜

『えつと・・・誰かと勘違いしてない？』

3

西連寺 春菜

『私には中学校の時から好きな人がいるんです・・・』

東城 紗（作品：いちご100%）

『私にもいるんです・・・でも気持ちを伝えるつて中々上手くいかないよね。』

4

西連寺 春菜

『わあ、かつこいいワンちゃん！マロンと友達になれるかな？』

銀（作品：銀牙—流れ星 銀—）

『（マロンと言つたか・・・主人を護ると言う強い意志を感じたぞ！）』

5

ベジータ（作品：D R A G O N B A L L）

『俺がサイヤ人の王子、ベジータ様だ!!』

西連寺 春菜

『えつと・・・王子様じゃなくての王女様だつたら友達にいます。』

・T o L o v e r —とらぶる—の場合 + α

・キヤラクター

- ・古手川 唯
- ・結城 美柑
- ・モモ・ベリア・デビルーク
(セリフ時はモモと略させていただきます。)
- ・ナナ・アスター・デビルーク
(セリフ時はナナと略させていただきます。)
- ・結城 梨斗

注：1部 T o L o v e r ダークネスのネタが入っています。ご了承ください

『古手川 唯の場合』

1

古手川 唯

『く、黒神さんっ！そんなどらしない格好なんてするんじゃありませんっ！あなた生徒会長でしょ!?』

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

▣元▣生徒会長だがな、そう言う古手川こそたまにははつちやけたらどうだ？』

2

古手川 唯

『不良の女子生徒って聞いてたから、どんな人かと思つたけど……あなた本当に不良なの?』

邦枝 葵（作品：べるぜバブ）

『まあ、通ってる学校が学校だしね。でも、迷惑かけるつもりはないから安心して、古手川さん。』

3

古手川 唯

『殺せんせー!!あなた教師なんですよね?だつたらこんなハレンチな物持つてこないでください!……はあ、どうしてこうもハレンチな教師が多いのかしら。』

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『にゅやつ!?ちよ、古手川さん!それは期間限定のやつでもう発売されてないんですよ!お願ひ!どうかそれだけはっ!!』

『結城 美柑の場合』

1

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬくべ）

『君は本当に小学生か?とても落ち着きがあるなあ。…………あいつらも少しば見習つてほしいものだな。』

結城 美柑

『そんなに落ち着きがあるように見えますかね?自分では普通のつもりなんだけどなあ。』

2

黒崎 一護（作品：BLACK CAT）

『俺にも2人妹がいるんだ、仲良くしてやつてくれ。』

結城 美柑

『黒崎さんの妹さん達ですか？いいですよ！妹同士で一度話してみたいですね！』

3

イブ（作品：BLACK CAT）

『そんなに、じろじろ見てどうしたの？あ、この本が読みたいの？』

結城 美柑

『いえいえ！私の友達に似てると思ったんです……あの、イブさんさえよければお友達になりませんか？』

《モモ・ベリア・デビルーカの場合》

1

蔵馬（作品：幽☆遊☆白書）

『宇宙の植物か、興味がありますね。』

モモ

『私も魔界の植物さん達と話しがしたいですね。』

2
モモ

『テレビから出てくるか、そういうシチュもありなのね……』

今度お姉様に頼んでみましょう！』

天野　あい（作品：電影少女）

『お前さつきから何を言つてゐるんだ?』

3

斎木　楠雄（作品：斎木楠雄のΨ難）

【植物の声が聞こえるのか、僕は動物が何を言つてゐるのかはわかるんだがな。】

モモ

『動物の声が聞こえるんですか？私の双子の妹も得意なんですよ。

仲良くあげてくださいね。』

『ナナ・アスター・デビルークの場合』

1

スイッチ（作品：SKET DANCE）

【この動物翻訳機、ラビエラを使ってみるか？】

ナナ

『そんなものなくとも私は動物達と喋れるぞ！それよりお前はたくさん発明品作ってるんだってな、今度お姉様と話してみたらどうだ？』

2

神楽（作品：銀魂）

『ナナは動物が何言つてるかわかるアルカ!?なら、定春が何て言つてるか教えてほしいアル!』

ナナ

『こいつすごい毒舌だな……でも、大切されてるって言うのは伝わるぜ!』

3

キン肉 スグル（作品キン肉マン）

『お前が王女さま？そんな訳あるかい！』

ナナ

『お前みたいな王子もみたことねーよっ！』

『結城 梨斗の場合』

1

ラツキーマン（作品：とっても！ラツキーマン）

『むむ、お前からは何かラツキー的なものを感じる……。』

結城 梨斗

『ええ！ そうかなあ、そんなについてるつてことはないんだけどなあ。』

2

トレイン＝ハートネット（作品：BLACK CAT）

『ん？ どうした、そんなにじろじろ人の顔を見て？』

結城 梨斗

『い、いえ！ ……やっぱりどう見ても瓜二つなんだよなあ、でも本人は殺し屋じゃないって言つてるし……。』

3×バクマン。

高木 秋人

『なあ、結城は漫画のアシスタントの経験があるって聞いたけど
本当か?』

結城 梨斗

『まあ、父親が漫画家だからな。その手伝いでやつたことがあ
るつてだけだよ。』

真城 最高

『じやあそれなりには出来るんだろ?なら、今度アシにこないか
?』

お礼はするぜ!』

幽☆遊☆白書の場合

- ・キヤラクター
- ・浦飯 幽助
- ・桑原 和馬
- ・蔵馬（南野 秀一）
（セリフ時は蔵馬と記入させていただきます。）
- ・飛影

『浦飯 幽助の場合』

1

脳噛 ネウロ（作品：魔人探偵 脳噛ネウロ）

『魔族の子か・・・くくつ貴様も中々の謎を生み出しそうだ。』

浦飯 幽助

『探偵か・・・同じ探偵だけど推理するより、ぶん殴つた方が俺は得意だな。』

2

男鹿 辰巳（作品：べるぜバブ）

『お前何でカツバなんて連れてんだ？』

浦飯 幽助

『ああ、こいつは俺の分身みたいなもんで・・・
・・・てか、それ言つたら何でお前も赤ん坊連れてきてんだよ？』

3

鶴野 鳴助（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『いいか、妖狐には気を付けろ！あいつは信用ならないぞ～！』

浦飯 幽助

『そうか？頼りがいがある奴だぜ？』

4

恐山 アンナ（作品：シャーマンキング）

『あんたも幽霊させることが成仏できるのね。』

浦飯 幽助

『これでも、幽霊を経験してるんだぜ！そのくらいはな！』

5

ゴン＝フリークス（作品：HUNTER×HUNTER）

『幽助さんは放出系の能力者だね！』

浦飯 幽助

『念能力だつけか？そんな大層なもんじやねえよ。』

『桑原 和馬の場合』

1

桑原 幽助

『お前もそうだけど！何で俺の周りには変身すると髪が長くなる奴が多いんだよ！』

奴良 リクオ・夜（作品：ぬらりひょんの孫）

『存外、妖怪つてそういうものなのかもな』

2

朽木 ルキア（作品：BLEACH）

『お前のその剣は斬魄刀より鬼道に近いものだな。』

桑原 和馬

『鬼道つてあれだろ？ビームとか打てるんだろ？俺は全然そんなのだせねえよつ！』

3

川藤 幸一（作品：ROOKIES）

『高校合格・・・すごいじゃないか！努力して夢を叶えようとする
その心意気立派だ！』

桑原 和馬

『お、おうそんなに褒められるとむず痒いな・・・』

4

ゆきめ（作品：地獄先生ぬくべく）

『あの、私の顔に何かついてる？』

桑原 和馬

『きれいだ・・・いやいや待て！俺には雪菜さんという人が・
！』

5

レオリオ＝バラディナイト

（作品：HUNTER×HUNTER）

『ようし！俺が大人の余裕つてもんを見してやるぜ！』

桑原 和馬

『お前、俺とそんなに年離れてねえだろ！』

《蔵馬の場合》

1

玉藻 京介（作品：地獄先生ぬくべく）

『ほう、お前は妖狐の血が流れているな、靈氣でわかる。』

蔵馬

『そういう貴方も妖気が隠しきれていませんよ。』

2

春野 さくら（作品：NARUTO——ナルト——）

『あなたは木遁の使い手なのね。』

蔵馬

『いえ、そんな御大層なものじゃありませんよ。』

3

羽衣狐（作品：ぬらりひょんの孫）

『同じ、狐同士仲良くしようではないか……』

蔵馬

『美しいものには棘があると言うが、棘ですみそうにないな……。』

4

蔵馬

『弱いものに味方する……かどうやらあなたは屑じやあないらしい。』

球磨川 襟（作品：めだかボックス）

『『当たり前じやないか、僕は屑じやあなく負マイナスなんだから。』』

5

蔵馬

『私は元盗賊です、……どうしました？』

クラピカ（作品：HUNTER×HUNTER）

『……いや、何でもない。……私が殺したい盗賊団は一つだけだ……。』

《飛影の場合》

1

緋村 剣心（作品：るろうに剣心——明治剣客浪漫譚——）

『……拙者は自らの炎で死んだ男を知っているでござるよ。』

飛影

『それはそいつが力不足だつたと言うだけだ。俺はそんなマヌケなことはしない。』

2

うちは サスケ（作品：NARUTO—ナルト—）

『黒い炎か危険だな、だが天照には遠く及ばない。』

飛影

『好きなだけ言つてろ、戦えばどちらが上かすぐにわかる。』

3

飛影
『・・・・ 黒龍波を打ちすぎた・・・ しばらく寝る。何かしたら殺す。』

ロージー（作品：ムヒヨとロージーの魔法律相談所）

『う、うん・・・・ 力を使いすぎると寝ちゃうんだ、誰かさんみたいだなあ・・。』

4

飛影

『お前の目は邪眼の類か？』

アレン・ウォーカー（作品：D. Gray-man）

『邪眼じやあありませんよ、呪われているだけです。』

5

飛影

『お前は容赦無く敵を殺すのか、良いことだ。』

キルア＝ゾルディック（作品：HUNTER×HUNTER）

『家庭の事情でね、慣れちゃつてるんだよ。』

SKEET DANCEの場合

・キャラクター

スケット団メンバー

・藤崎 祐介（ボツスン）

・鬼塚 一愛（ヒメコ）

・笛吹 和善（スイッチ）

（このキャラはパソコンで喋るという設定なので【】のような表現をさせていただきます。）

注意）セリフ時は○内の名前で使わせていただきます。

『藤崎 祐介の場合』

1

黒子 テツヤ（作品：黒子のバスケ）

『あなたの学校にはバスケ部があると聞きましたが・・・』

ボツスン

『おお、あるぜ！小さいけど好きって気持ちなら負けない
そんな部活だぜ！』

2

三雲 修（作品：ワールドトリガード）

『人を助けるっていう点だとボーダーと似てますね。』

ボツスン

『そんなんじゃねーよ、俺たちはただのお人好し集団だ！』

3

ボツスン

『射的対決なら負けねーぜ！たとえアンタが銃を使つてもな！』

クロ（作品：BLACK CAT）

『おお、言うじゃねーかよーしその勝負乗つた！』

『鬼塚 一愛の場合』

1

ヒメコ

『邦枝ちゃん、好きな子いるんやろ／＼、ちよつとお姉さんに言う
てみいや／＼』

邦枝 葵（作品：べるぜバブ）

『ええ／＼ヒメコちゃんちよつとおじさんぽくなつてない？／＼

』

2

ヒメコ

『あたし先生になりたいって思つてんねん
先輩としてアドバイスくれへん？』

川藤 幸一（作品：ROOKIES）

『おお・・先輩か／＼そうだな・・・

夢を貫くことの大切さを忘れないこと・・・だな。』

3

ヒメコ

『わあ／＼なんやめつちやかわいいやん！
ペロキヤンなめるか？』

リボーン（作品：家庭教師ヒットマンREBORN！）

『こう見えて俺はお前よりも年上だぜヒメコ、だが、飴はもう
う。』

《笛吹 和義の場合》

1

スイッチ

【君が通っている学校にはリアル2次元女子がいると聞いたの
だが・・・】

潮田 渚（作品：暗殺教室）

『えっと…律のことですか？いますけど…竹林君みたいな人だなあ…。』

2

天野 あい（作品：電景少女）

『お前 ゼバカニ何ツハセをシロシロ見てんだよ!』

文
集
卷

3

魔人探偵脳噓矛の口（作品）

人間界のハソーンぐらいなら
我輩も自由に行き来できる

スイツチ

〔あ、結構です（＝。ω。）ノ〕

《スケット団の場合》

1

黒神 めだか（作品：めだかボツクス）

いか?
ル

ボツスン

東山文庫

『え、あたし江迎ちゃんと普通にお話したいねんけど、』

スイツチ

【俺は名瀬先輩と話しがしてみたい。というかあの人のお兄さんと！】

ボツスン

『お前ら少しばりーダーの顔立てろよ!!』

2

スイッチ

「“ララ・サタリン・デビルーク”デビルーグ星の王女様で今は
結城リトと言う高校生の家に居候しているこれが彼女のデータだ。」
ララ（作品：To Loveる—とらぶる—）

『さすが、スイッチ!!……えへへ、これ言つて見たかつたんだあー

!』

スイッチ

「……………」

ヒメコ

『アカン！スイッチがあまりの本人の可愛さにテンパつとる！』

ボツスン

『オイ！スイッチ！しつかりしろお！』

3

スイッチ

「あなたは自分が個性が強いと思つて いるだろうが……こちらも負けてない！うちのボツスンは子供、大人はもちろん！透明人間やスライムにも変身している!!」

一堂 零（作品：ハイスクール奇面組）

『な、なんと！た、確かにすごい能力だが！こちらも負けてない！
いざ、尋常に勝負!!』

ボツスン

『……………／＼』

ヒメコ

『何で照れとんねん!! 何か掛け合いいしいや!』

4×BLACK CAT

トレイン＝ハートネット

『お前中々筋がいいじやねーか!』

ボツスン

『よつしゃ! もう一回だけ勝負しよーぜ!』

イブ

『・・・・・なんで、こんなに熱くなってるの?』

ヒメコ

『馬鹿どもはほつといて／＼イブちゃん飴ちゃん食べるか?／＼

スイッチ

【うちの部長達が迷惑かけて申し訳ない】

スヴェン＝ボルフィード

『いや、こつちもパートナーが馬鹿やつててすまねえ・・・』

5×銀魂

1

坂田 銀時

『もう何回も銀魂もコラボしちやつてるから! すみませんねえ!
そろそろ劣化版銀魂も言われるのも辛くなつてきたんじやないんで
すかあ!?』

ボツスン

『いーえ! とんでもございませえん! 寧ろよくそんなにPTAに
喧嘩売れるなあゝと尊敬の目で見せてもらつてござえますう!』

神楽

『こいつら、普通にメタいことバンバン言つて何やつてるアル。』

ヒメコ

『あ、やっぱりここ）の掛け合いも万事屋さん達と一緒になんやなあ
』。

スイッチ

【ああ、BLACK CATでも出来たんだから銀魂なら尚更
できるだろう、と言う作者のありきたりの考えで実現した。】

志村 新八

『アンタらもメタいこと言つてんじゃねえよオ！
ヒメコさんも仕事してください！』

B L E A C H の場合

- ・キヤラクター
- ・黒崎 一護
- ・朽木 ルキア
- ・井上 織姫

『黒崎 一護の場合』

1

相楽 左之助（作品：るろうに剣心）

『お前も大剣を使うのか、やっぱ男は大剣だよな！』

黒崎 一護

『正解したら刀になるつて言わねーほうがいいな・・・』

2

黒崎 一護

『俺が知ってる死神とずいぶんちげーな・・・』

リューク（作品：DEATH NOTE）

『ああ、こつちには虚^{ホロウ}なんて存在もねえなあ！まああつたらあつたで面白そうだなあ～！』

3

黒崎 一護

『誰かを倒す強さじゃなく誰かを守る強さがあればそれでいい・・・』

アレン＝ウォーカー（作品：D·Gray-man）

『守るために戦う・・・その通りですね。エクシソシストも死神代行もそこは変わらないんですね。』

4

武藤 遊戯（作品：遊☆戯☆王）

『君の中にももう一人の別の自分がいると聞いたんだけど・・・』

黒崎 一護

『ああ、確かにいるぜ俺を側で支え続けてくれた奴らだ。』

5

恐山 アンナ（作品：シャーマンキング）

『あんたも相当な靈感ね、ひょっとして

シャーマン？』

黒崎 一護

『確かに幽霊と喋れたりするけど、別にシャーマンつてわけじゃ
ねーよ、俺は死神代行だ。』

『朽木ルキアの場合』

1

沢田 綱吉（作品：家庭教師ヒットマンREBORN！）

『死ぬ気の炎でやつてやる。』

朽木 ルキア

『死ぬ気の炎か・・・意気込みはいいが死神の前で倒れるような
ことにはなるなよ。』

2

朽木 ルキア

『私の斬魄刀は袖白雪と言つて、氷雪系の斬魄刀だ。』

麻倉 葉（作品：シャーマンキング）

『ホロホロの能力と似てるな、なあ今度ホロホロにあつてみねえ
か？』

3

朽木 ルキア

『藤原お前が現世に居られる時間はもう・・・。』

藤原 佐為（作品：ヒカルの碁）

『ええ、わかつています。ただもう少しヒカルと居られればそれでいい。』

4

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『正直な所、死神は苦手だ。』

また、死んでいたらシャレにならん。』

朽木 ルキア

『・・・・スマンあまりそういうことを言わないで貰えるか・・・

その・・・何故かお前の声で言わると少々傷つく。』

5

朽木 ルキア

『おい真城！どうだこの私が描いたキャラクターは！貴様のマンガに使つてもいいぞ！』

真城 最高（作品：バクマン。）

『・・・・なあ今度絵の描き方教えてやろうか？』

『井上 織姫の場合』

1

井上 織姫

『お兄ちゃんは私のことをとても心配してくれた。』

だからもう、心配させないようには精一杯がんばるつて決めたの！』

うちは サスケ（作品：NARUTO—ナルト—）

「…………どこの世界でも兄という存在はそういうものな
のか……。』

2

春野 さくら（作品：NARUTO——ナルト——）

『すごい……傷がどんどん癒えていく！織姫あなたのはなん
なの!?』

井上 織姫

『えつと……拒絶する力……です？』

3

脳噛 ネウロ（作品：魔人探偵脳噛ネウロ）

『ほう、貴様のヘアピン我輩のと同じように何か秘密があるな？』

井上 織姫

『えつ！ネウロさんのにも何かあるんですか！ちょっとだけ見せ
てください！』

4

ジヨルノ＝ジヨバーナ（作品：ジヨジヨの奇妙な冒険）

『事象を元に戻す能力……か、あなたにも搖るぎない覚悟がある
んですね。』

井上 織姫

『大切な人の隣に立つ……それが私の覚悟だよ。』

5

井上 織姫

『私、お料理するのが好きなんだ！』

ララ・サタリン・デビルーク

（作品：To Loveる——とらぶる——）

『織姫ちゃんも!?じゃあ今度一緒に料理しようよ！』

• BLEACHの場合+ α

キャラクター

・ 石田 雨竜
・ 茶渡 泰虎
・ 阿散井 恋次
・ 藍染 惣右介

『石田 雨竜の場合』

1

うちは サスケ（作品：NRUTO—ナルト—）

『どんな時でもただ真っ直ぐに進む、そんなウスラトンカチが俺達の世界にはいる。』

石田 雨竜

『……似たような奴なら僕も知っているよ。』

2

石田 雨竜

『滅却師と陰陽師、似た者同士仲良くできそうだね。』

花家院 ゆら（作品：ぬらりひょんの孫）

『そうやね、人なげぬ者から人々を守る！ああ～石田さんみたいな人がお兄ちゃんやつたらなあ。』

3

東城 綾（作品：いちご100%）

『あ、あの石田くんは衣装を作るのが得意って聞いたんだけど、映画研究部の衣装作るの手伝ってくれないかな？』

石田 雨竜

『…………まかせてよ、東城さん、きっと似合う衣装を作つてみせる!』

《茶渡 泰虎の場合》

1

モンキー・D・ルフイ（作品：ONE PIECE）

『お前のその腕カッケエ〜！ブラ……何だつけ？』

茶渡 泰虎

『ブラン・デレチャ・デ・ヒガンテ、巨人の右腕と言う意味です。ルフィさんの場合は本当に腕が大きくなるんですね。』

2

黒子 テツヤ（作品：黒子のバスケ）

『その身長に黒い肌、茶渡くんはなんだかお父さんに似ていますね。』

茶渡 泰虎

『く、黒子のお父さんはこんな感じなのか・大分イメージと違うな。』

3

茶渡 泰虎

『お前……その、動物を呼び出せるって聞いたんだがほ、本当

か？』

ナナ・アスター・デビルーカ

（作品：T O L O V E R—とらぶる—）

『ん？ああ、呼び出せるけど、なんだお前も動物好きなのか？だったら、今度動物達と一緒に遊ばせてやるよ！』

『阿散井 恋次の場合』

1

緋村 剣心（作品：るろうに剣心—明治浪漫譚—）

『お主の刀を見ていると、刀狩りの張を思い出すでござる。』

阿散井 恋次

『俺は刀は集めてねーよ！この蛇尾丸だけで充分だ！』

2

ロロノア・ゾロ（作品：ONE PIECE）

『珍しい刀持つてんな、どうだ少し戦つてみねえか？』

阿散井 恋次

『3本も刀を持って戦えんのか？いいぜ、その勝負乗つた！』

3

坂田 銀時（作品：銀魂）

『……よし、テメーには甘党直伝宇治金時丼を教えてやる。』

阿散井 恋次

『なんだよ！その胡散臭い名前は！……一応聞くだけ聞いてやる。』

『藍染 惣右介の場合』

藍染

惣右介

1

『あまり強い言葉を遣うなよ、弱く見える。』

ラオウ（作品：北斗の拳）

『このラオウの強さを

言葉で測ろうとは笑止千万！』

2

孫 悟空（作品：DRAGON BALL）

『難しいことは、よくわからんねえけど世界を
めちゃくちやにするつてんなら、オラ容赦しねえぞ。』

藍染 惣右介

『…………どこの世界にも立ち塞がる壁はあるもの、か。』

3

緑谷 出久（作品：僕のヒーローアカデミア）

『オールマイトは僕の憧れです！些細な事件でも、大きな事件で
も解決する！ビネガースーサイド事件のときなんて……ブツブツ。』

藍染 惣右介

『…………憧れは理解から最も遠い感情だよ。その君の誰かに対
する感情もだ。』

黒子のバスケの場合

- ・キャラクター
- ・黒子テツヤ
- ・火神 大河
- ・赤司 征十郎

『黒子テツヤの場合』

1

ゴン・フリークス（作品：HUNTER×HUNTER）
『すごい！黒子さんは”絶”が使えるの!?』

黒子 テツヤ

『いいえ、違いますよ。ゴンさん達の世界には気配を消す技術があるんですか、すごいですね。』

2

奴良 リクオ：夜（作品：ぬらりひょんの孫）

『すげーな黒子、お前のその気配を消す動き。俺と似たようなものか。』

黒子 テツヤ

『妖怪の総大将のお墨付きですか、ありがとうございます。』

3

黒子 テツヤ

『ルフィさんの見聞色の霸氣というのは僕の気配も気づくことができたんですか？』

モンキー・D・ルフィ

『ああ！だけどお前の気配感じるの結構難しかつたぞ！すつげーなお前！』

4

坂田 銀時（作品：銀魂）

『俺達の世界にも幻の5人目^{ファイブマン}がいてな……』

黒子 テツヤ

『…………坂田さんからかってるんですか？』

5

桜木 花道（作品：SLUM DUNK）

『よっしゃあ！ 黒子！ 僕にガンガンバス回せ！ 誰よりも目立つ！』

黒子 テツヤ

『はい桜木くんバスは任せてください。僕は影ですから。』

『火神 大河の場合』

1

越前 リョーマ（作品：テニスの王子様）

『A re y ou A m e r i c a n g r e w u p?』

火神 大河

『オ、オウ イエス …… つだあ！ もう日本語で喋れよ！』

2 神楽（作品：銀魂）

『定春、バカガミにじやれてくるヨロシ。』

火神 大河

『神楽！ テメエなにいつてん……うおア！ こつちくんなあ！』

3 火神 大河

『な、なんでこんなに犬がたくさんいるんだよ、』

銀（作品：銀牙——流れ星 銀——）

『(なにを、そんなに怖がる？ 敵で無ければ特には噛まんぞ。)』

4

火神 大河

『つ！お前すげえ跳躍だな！』

日向 翔陽（作品：ハイキュー!!）

『どうだー。デカいやつだけの特権じやあねーんだぞ！』

5

火神 大河

『やつぱりこいつキセキの世代の奴ら見てーだ！
おい流川！10n1やろーぜ！』

流川 楓

『・・・・・お前も勝手に人をライバル視する
タイプか？・・・いいぜ、その勝負乗った。』

『赤司 征十郎の場合』

1

空閑 遊真（作品：ワールドトリガー）

『俺の先輩にも未来が見える先輩がいるぞ。
アカシの眼もそうなのか？』

赤司 征十郎

『確かに“俺”と変われば、見ることができると聞いている
んなに先のことを見れるわけではないよ、空閑。』

2

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

『お前は“言葉の重み”と似たようなものが使えると聞いている
が・・・。』

赤司 征十郎

『俺は物理的に相手を倒している訳ではないよ黒神。ただの技術さ。』

3

赤司 征十郎

『君が進藤なんだね、よかつたら俺と囲碁を打つてくれないか?』

進藤 ヒカル（作品：ヒカルの碁）

『うう、この人やたら威厳っていうか威圧があるから苦手なんだよなあ～。』

4

赤司 征十郎

『昔は孤高の王のように振舞っていたが・・・やはり、仲間という存在は素晴らしいものだと実感したよ。君はどうだい?』

影山 飛雄（作品：ハイキュー！）

『・・・・・まあ、使えない奴らじやあねえよ。』

5

赤司 征十郎（作品：黒子のバスケ）

『貴方が湘北高校の大黒柱赤木さんですね。』

同じキャラクターとして是非お会いしたいと思つてました。』

赤木 剛憲（作品：SLUM DUNK）

『君がキセキの世代、そして洛山高校のキャラクター赤司なんだな。なるほど確かに1年生とは思えない風格だ！』

・黒子のバスケ+α

- ・キヤラクター
- ・黄瀬 涼太
- ・緑間 晋太郎
- ・青峰 大輝
- ・紫原 敦

『黄瀬 涼太の場合』

1

空閑 遊真（作品：ワールドトリガー）

『俺も相手の技をコピー出来る能力だぞ。』

黄瀬 涼太

『マジっすか!? 俺以外にもいたなんて、空閑つちとは仲良くなれそうつスね!』

2
黄瀬 涼太

『なうんか、俺周りからの扱いが雑な気がするんすよねえ。』

古市 貴之（作品：べるぜバブ）

『わかる! わかるよ! 俺の扱いもひどいんだぜ? なんで男鹿ばつかり……』

3

越前 リヨーマ（作品：テニスの王子様）

『あんた、人の技を真似するのに無口じやないんだね。純粹そ

にも見えないし・・・』

黄瀬 涼太

『む、無口？それに純粋？越前つちは何を言つてるんすか！』

『緑間 晋太郎の場合』

1

ラツキーマン（作品：とつても！ラツキーマン！）

『うむ！今日もラツキー絶好調なのだ！』

緑間 晋太郎

『なぜだつ！今日はおは朝の占いで蟹座は1位のはずなのに、なぜお前にばかりいい事が起きるのだよつ！？』

2

緑間 晋太郎

『おしごとが好きか？まあ、そうだな。嫌いではないのだよ』

坂田 銀時（作品：銀魂）

『よし、それじゃあそのおしごとを貸せ、より美味しく食える方法を教えてやる！』

3

空条 承太郎（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『な!?お前のそのシユート明らかに異様だ！まさかお前スタンド使いか!?』

緑間 晋太郎

『すたんだ？何を言つてゐるのだよお前は？それにその身長・・・むしろそれでスポーツをやつていな事に驚いたのだよ。』

『青峰 大輝の場合』

1

ララ・サタリン・デビルーカ（作品：T O L o v e r）
『よし！私もお料理張り切っちゃうよー！』

青峰 大輝

『巨乳でピンク色の髪・・・アンタも料理下手とかいうオチじやねーよな？』

2

青峰 大輝

『オレに勝てるのはオレだけだ、まあ今はちょっとだけその考えが変わってきたかもな。』

日比野 晴矢（作品：B・Y）

『その通り！オレはお前に勝てるからな！つまり俺が最強う！』

3

青峰 大輝

『へえ、お前がテツや火神が言っていた、桜木か・・・いいねえオイ俺と勝負しようぜ！』

桜木 花道（作品：S L A M D U N K）

『おう！いいぜ！負けても泣くんじゃねーぞ！』

1

紫原 敦

『日向ちん、どうしたの？ そんなに俺のこと見て？』

日向 翔陽（作品：ハイキュー!!）

『高つけえ！ で、でもジャンプ力なら負けねーぞ！ ……負け
ねーからな!!』

2

紫原 敦

『んまい棒？ 何それかぐちん俺のまいう棒と交換しない？』

神楽（作品：銀魂）

『よし！ いいあるよ！ んまい棒1本につきまいう棒10本アル
！』

3

緑谷 出久（作品：僕のヒーローアカデミア）

『僕はみんなよりも持っていない、だからこそ努力をしなきやい
けないんです！』

紫原 敦

『みどりんも面倒くさいタイプだね。……あ、みどりん
じゃあみどりんと被っちゃうなあ、なんて呼ぼう。』

魔人探偵脳噛ネウロの場合

・キヤラクター

- ・脳噛ネウロ
- ・桂木 弥子
- ・X

『脳噛ネウロの場合』

1

夜神 月（作品：DETAH NOTE）

『魔人……か。魔人だろうが何だろうが俺の正体を暴こうとするなら……。』

脳噛ネウロ

『月とやら、貴様には究極の謎を生み出せるほどの力を感じるぞ。その謎が出来たとき真っ先に我が輩が食い尽くしてやる……！』

2 脳噛ネウロ

『ほう、貴様から魔界の炎にたエネルギーを感じるぞ。』

飛影（作品：幽☆遊☆白書）

『魔人か……S級妖怪以上の妖力だな。そんなに見たければ直接肌で感じさせてやろうか。』

3

脳噛ネウロ

『貴様に一度でいいから会いたいと思つていたのだ。……なるほどひよつとすると我が輩より化物かもしけないな。』

両津勘吉（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

『さつきからおまえ何を言つてゐるんだ!?』

怪しいやつだな！しょっぴいてやる！』

4

DIO（作品：ジョジョの奇妙な冒険第3部）

『人間はこのDIOの食糧であり、このDIOの所有物だ。このDIOにのみ支配する権利を持つてゐる。』

脳噛ネウロ

『ちがう、人間は我が輩の食糧であり、我が輩の玩具だ。我が輩だけがいじくる権利を持つてゐる。』

5

脳噛ネウロ

『貴様の生徒も美味なる謎を生み出せるかな？』

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『ええ、すばらしい可能性を持つ子達ですよ。』

《桂木 弥子の場合》

1

桂木 弥子

『これ中々美味しいね！このピーナッツバターがまた何とも言えない風味を出して・・・』

幸平 創真（作品：食戟のソーマ）

『俺の炙りゲソ。ピーナッツバター和えを美味そうに食べるだと!?俺もまだまだだな・・・』

2

桂木 弥子

『トリコさん……ほんのちょっと、ほんのちょっとでいいのでそのお弁当ください。ハアハア』

トリコ（作品：トリコ）

『お前全部食う気だろうが！
てか、よだれものすつごい垂れてるぞ！』

3

桂木 弥子

『もぐもぐっ！…………つ！サンジさんの料理最高ですよ！』

ヴィンスモーカ・サンジ（作品：ONE PIECE）

『そいつは嬉しいんだが…………。
ルフイ並みに飯を食うレーディを始めて見たぜ。』

4

沢田 綱吉（作品：家庭教師ヒットマンREBORN!!）

『うちの家庭教師はとにかく厳しくて、それでいて酷くて大変なんです…………。』

桂木 弥子

『ああ～なんか似た者同士で何か分かる気がする、
私の所もとにかく酷くて…………はあ。』

5

天野 あい（作品：電影少女）

『…………お前もパソコンから出てきた私が人に恋をすること
がおかしいと思うか？』

桂木 弥子

『ううん、そんなことないよ。私は好きな人に会うため0と1の
間で努力し続けた人を知ってるから。』

『Xの場合』

X 1
『俺と同じ変身能力！あなたを解剖すれば俺の正体が分かるかも！』

イブ（作品：BLACK CAT）

『解剖はされない。……だけど、あなたが自分自身が何者か分かる日がくるといいね。』

X 2

『あんたも四角くして、あげようか？』

雨取 千佳（作品：ワールドトリガー）

『い、いや私はもう結構です。というか四角くするつてXさんつてあのトリガーを持つてるんですか？』

X 3

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『鬼の手で触れられなかつたということはお前は人間なのか

X 4?

『鬼の手ねえ……そのぐらいだつたら俺も再現出来ちやうよ。』

4

クラピカ（作品：HUNTER×HUNTER）

『やはり盗賊にはろくな奴がいないつ……！』

X

『あんたからはすごい復讐心が感じられるね。少しその中身見てみたいかも。』

X 5

『ねエ君達の先生殺して解体させてもらうよ。俺という存在がまた分かるかもしれないしね。』

潮田 渚（作品：暗殺教室）

『いいんですけど、多分無理だと思いますよ。』

ぬらりひよんの孫の場合

・キャラクター

・奴リクオ

(このキャラクターは朝と夜で性格、格好が変わるという設定なのでセリフ時、隣に朝または夜と表記させていただきます)

・水麗

・花家院 ゆら

・羽衣狐

『奴良 リクオの場合』

1

奴良 リクオ：夜

『ツナ、お前のその死ぬ気の炎つてすごいな、まるで別人だ。』

沢田 綱吉（作品：家庭教師ヒットマンREBORN!!）

『……お前こそ夜になつたら、それこそ別人じやないか。』

2

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『妖怪の総大将ぬらりひよん……あまり悪さはしてくれるなよ。俺が退治しに行くことになるからな。』

奴良 リクオ：夜

『安心しなぬ～べ～俺は人に仇なす組は作らねーよ。』

3

青野 月音（作品：ロザリオとバンパイア）

『君を見ていると人と妖怪が共存できるってことを示してゐたいでうれしいよ。ありがとう。』

奴良 リクオ：夜

『…………そいつはうれしいな、だが月音も妖怪達とうまくや
れてるようじゃねえか、お前も自信を持ちな。』

4

桐崎 千棘（作品：ニセコイ）

『リクオくん！間違つてもあいつの組と喧嘩沙汰にならないよう
にしてね！』

奴良 リクオ：朝

『そんなことしませんよ千棘さん！つて言いたいけどみんなはお
祭り騒ぎ好きだからなあ・・・・・。』

5

緋村 剣心（作品：るろうに剣心）

『奴良組・・・・・確かに聞いたことがあるでござるよ、妖怪
がいるという噂は耳にしたでござるが、まさか本当だつたとは』

奴良 リクオ：朝

『緋村さんの時代だと僕のお父さんの代の組・・・・・負け
てられない！僕の組も立派にさせていく！』

『氷麗の場合』

1

氷麗

『私は若のためならなんだつてする覚悟があるわ！』

鶴 誠士郎（作品：ニセコイ）

『私もお嬢様のためならどんなことだつてする覚悟があります
！』

2

緑谷 出久（作品：僕のヒーローアカデミア）

『轟くんと同じ能力でも氷麗さんは火は出せない、けど氷の応用力を考えれば……ブツブツブツブツ』

氷麗

『……この子なんか怖いんだけど……ハツ！ダメダメ！妖怪の戦いは畏れた方が負けてしまう！』

3

朽木 ルキア（作品：BLEACH）

『雪女か……氷の能力を扱うものとして一度手合わせしてみたいと思つていた！』

氷麗

『死神か……氷のスペシャリストとしては負けるわけにはいかないわね！』

4

白雪 みぞれ（作品：ロザリオとバンパイア）

『男を惚れさせるたいなら多少強引にいけ、同じ雪女同士知恵を貸してやる……。』

氷麗

『みぞれさんっ！ありがとうございます！ええそうよね多少強引にいった方がいいのよね！』

5

ゆきめ（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『鶴野先生の素晴らしさをたっぷり教えてあげましょうか？妖怪総大将よりもたつつくさんあるので時間はかかりますけど！』

氷麗

『いいえ結構です！若の素晴らしさの方がたつつくさんありすぎ

て逆に大変でしようから!』

『花家院 ゆらの場合』

1

花家院 ゆら

『やつぱりTKGは最高やなあ。』

神楽（作品：銀魂）

『ゆら中々わかってるアルな! うちの男共とはちがうね!』

2

花家院 ゆら

『銀さんも式神を持つてるつて聞いたけどどんな式神なん?』

坂田 銀時（作品：銀魂）

『人の○玉を普通に潰してくる、鬼の式神だ。よかつたらやるよ。てか、もらつてください!』

3

六水 透（作品：ムヒヨとローリーの魔法律相談事務所）

『ヒッヒ、花家院時期当主がこんなお子ちゃまだとわな。』

花家院 ゆら

『あんたの方が十分お子ちやまやんか!』

4

黒崎 一護（作品：BLEACH）

『俺は妹達を守る、例えどんなことがあろうともな。』

花家院 ゆら

『素直でええお兄ちゃんやなあ、あなたの爪の垢どつかの誰かさんに飲ませたいわ。』

5

花家院 ゆら

『うちの友達にな妖怪のくせに人を妖怪から守る奴がいるんよ不思議で、だけど大切な友達なんや。』

空閑 遊真（作品：ワールドトリガー）

『俺も近界民だけど近界民から人を守つてるぞ、その友達とお揃いだな。』

『羽衣狐の場合』

1

うずまき ナルト（作品：N A L U T O）

『お前は九尾なのかつ!?俺が知ってる奴とは随分違うつてばよ

!』

羽衣狐

『妾は九尾ではないが・・・ほう、おぬしの中には狐がいるのか。』

2

玉藻 京介（作品：地獄先生ぬ~べ~）

『お前が羽衣狐が何度も転生をする妖怪と聞いているが・・・。』

羽衣狐

『妾はもう転生はできぬよ、今は母性の妖怪として存在しているのだから。』

3

羽衣狐

『かつての妾と同じように他人に取り憑くことができる狐か、そして中々の残酷性を持つておる。』

姐己（作品：封神演義）

『あら、わらわと同じ狐ちゃんなの？それじゃあ仲良くしましょ
♡』

4

空条 承太郎（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『俺は2度も蘇ってきた吸血鬼を知ってるぜ、あなたはどうなん
だ？』

羽衣狐

『……かつては妾もそうだつたな、だが今は人も妖も慈しむ母
であろうと思つていてる。』

5

ボボボーボ・ボーボボ（作品：ボボボーボ・ボーボボ）

『同じ母性にあ溢れたもの同士、協力し合おうじゃないか！』

羽衣狐

『……おぬしのどこが母性に溢れておるのだ。』

北斗の拳の場合

・キャラクター

- ・ケンシロウ
- ・トキ
- ・ラオウ

『ケンシロウの場合』

1

ジョナサン・ジョースター（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『あなたの戦い方は僕の戦い方の参考になる・・・

・・学ばせてもらいます！』

ケンシロウ

『その心、悪に墮ちることがないようにしてくれ。』

2

緋村 剣心（作品：るろうに剣心—明治剣客浪漫譚—）

『どんな殺人術でも使うものの心によつては人を守ることができ
る、拙者はそう思うでござるよ。』

ケンシロウ

『ああ、そのとおりだ。この手でも守るべきものがある。』

3

剣 桃太郎（作品：魁!!男塾）

『へえ、あんたが北斗神拳の使い手か一度手合わせ願いたいもん
だ。』

ケンシロウ

『お前も様々な秘拳を体得しているようだな、戦うとしたら手強
い相手だ。』

4

ケンシロウ

『お前も、愛のために戦うのか？』

桜木 花道（作品：S L U M D A N K）

『ああ、憧れの晴子さんのために戦う……！
まさしく俺は愛の戦士！』

5

坂田 銀時（作品：銀魂）

『お前が百^ホ須^ス斗^ト神劍伝承者、ケンシロウ！』

ケンシロウ

『待て坂田、そんな男は知らん。』

『トキの場合』

1

うちは サスケ（作品：N A R U T O —ナルト—）

『兄を殺すということがどれほどのことか、あんたにはわかるか

？』

トキ

『……半端な覚悟など持つてなどいない。無論それ相応の
覚悟を持っているさ。』

2

アレン・ウォーカー（作品：D·G r a y —m a n）

『僕の世界では人々がアクマの恐怖に怯えながら暮らしていま
す。でも、そのためのエクソシストです。』

トキ

『どんなに荒れた世界でも、お前のような存在がいる。それがど
れほど人々に希望を与えてるか……。』

3

春野 サクラ（作品：NARUTO——ナルト——）

『あなたも回復術を身につけているのね。でも、私の術とは違う
ような?』

トキ

『方法は違えど、人を救うということではどちらも同じものだ。』

4

浦飯 幽助（作品：幽☆遊☆白書）

『力じゃなく、技で相手を倒すか……幻海のバアさんみ
てえだな。』

トキ

『その者も、また己を鍛えた者なのだな、一度会つてみたいもの
だ。』

5

トキ

『沢田綱吉、命を簡単に捨てるな。』

沢田 綱吉（作品：家庭教師ヒットマンリボーン）

『い、いや、僕の場合は死ななきや戦えないというか何とい
うか……』

『ラオウの場合』

1

志々雄 真実（作品：るろうに剣心）

『この世の統べる霸者はたつた1人でいい、そうは思わねえか？』

ラオウ

『よがろう、拳を交えればどちらが真の霸王かわかるだろう。』

2

DIO（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『ひれ伏せ！人間共！貴様らはこのDIOが支配する！』

ラオウ

『人ならざる者よ貴様は愚かな選択をしたと今に思い知るだろ
う。』

3

日々野 晴矢（作品：B・Y）

『世界を支配い？このオレ様を前に、よくそんなことが言えた
なあ！？』

ラオウ

『貴様風情が世界を征すると？愚かな、身の程を知れ！』

4

ミドリマキバオー（作品：みどりのマキバオー）

『で、でかい馬・・・で、でも負けないのね！』

ラオウ

『そのような体で黒王号に挑むか、いいだろう存分に戦うがい
い。』

5

ボボボーボ・ボーボボ（作品：ボボボーボ・ボーボボ）

『剛の拳？いいだろう、俺の鼻毛神拳で迎え撃つてやる！』

ラオウ

『貴様のそのふざけた拳で俺を討つというのか、おもしろいやつ
てみるがいい！』

るろうに剣心——明治剣客浪漫譚——の場合

キャラクター

- ・緋村 剣心
- ・相楽 佐之助
- ・志々雄 真実

『緋村 剣心の場合』

1

ロロノア・ゾロ（作品：ONE PIECE）

『侍とは一度手合わせしてえと思つてたんだ。抜けよ剣心、戦おうぜ。』

緋村 剣心

『いや、拙者は無益な戦いはしないでござるよ。真剣勝負がお望みなら他をあたるでござる。』

2

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『昔は死神と言わっていましたが、今は1人の教師ですよ。』

緋村 剣心

『拙者ももう人斬りではなく、1人の侍でござるよ。お主のようには姿は変わつてはおらぬが……。』

3

両津 勘吉（作品：ちら葛飾区龜有公園前派出所）

『お前何だその刀は!? 怪しいやつだな、ちょっと来い！』

緋村 剣心

『お主が未来の警官か、どこの時代でも警官は一癖あ・・・いや、この刀は別に怪しいものでは・・・おろく?』

4

緋村 剣心

『日頃の努力を怠らなければ、立派な侍にも武士にもなれるでござるよ。』

磯部 磯兵衛

(作品・磯部磯兵衛物語／浮世はつらいよ)

『・・・・・自分目が覚めたで候!拙者も立派な武士になるため頑張るで候!明日から!』

5

坂田 銀時 (作品:銀魂)

『侍つてのはなあ、どんだけ時代が変わつても人の真心だけは忘れちやいけねえ、そういうもんだ・・・。』

緋村 剣心

『・・・・・銀時、金は貸さんでござるよ。』

《相楽 左之助の場合》

1

緑谷 出久 (作品:僕のヒーローアカデミア)

『僕は人々を助けるヒーローになります!』

相楽 左之助

『正しく正義の味方つてわけか、"悪"を背負うにはちと正直すぎるな。』

2

前田 大尊 (作品:ろくでなしBLUES)

『喧嘩なら、俺の右に出るものはいねえー!』

相楽 左之助

『いいねえ、やっぱ喧嘩はこういう感じじゃなきやーいけねえ
なあ！』

3

相楽 左之助

『蒸気機関車？あれは狐やら狸やらに化かされているんだよ！』

竈門 炭次郎（作品：鬼滅の刃）

『いえ違いますよ、あれは山の神様なんです！』

4

相楽 左之助

『一重の極みつてのはなあ、1撃目のあと瞬時に2撃目を打つ技
法なんだぜ！』

トリコ（作品：トリコ）

『よくわからんねえけど、釘パンチみたいなもんか？』

5

相楽 左之助

『俺の居候先も道場だぜ。今度道場破りでもしてみたらどうだ
！』

志村 新八（作品：銀魂）

『道場破りはしませんけど・・・確かに今度そちらの道場に行つて
みたいですね！』

『志々雄 真実の場合』

1

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬくべ）

『ただならぬ気配、まるで地獄からやつてきたようだ・・・。』

志々雄 真実

『地獄から来た……か、言い得て妙だな。』

2

飛影（作品：幽☆遊☆白書）

『炎の剣……所詮はただの炎だ。魔界の炎には遠く及ばん。』

志々雄 真実

『テメエのものさしで語るんじやねーよ、地獄の業火に焼かれ死にな。』

3

志々雄 真実

『所詮この世は弱肉強食、弱い奴から死んでいくのさ。』

球磨川 襟（作品：めだかボックス）

『確かに▣強い▣は生き残る、でも▣弱い▣だつて生き残るんだぜ？最弱の僕が言うんだ、間違いないぜ。』

4

爆豪 勝己（作品：僕のヒーローアカデミア）

『どつとくたぱりやがれ！ミイラ男！』

志々雄 真実

『正義の味方が言う言葉じゃあねえな。だが、抜刀斎より殺す気できてる所は評価できるぜ。』

5

藍染（作品：BLEACH）

『十本刀か、私にも十人の部下がいたが誰もこの私には付いていけなかつたよ。』

志々雄 真実

『結局の所、大将同志の戦いで決着がつくのさ。』

べるぜバブの場合

キヤラクター

- ・男鹿 辰巳&べる坊
- ・ヒルデガルダ
(セリフ時はヒルダとさせていただきます。)
- ・邦枝 葵

『男鹿 辰巳&べる坊の場合』

1

則巻 アラレ（作品：D r. スランプ）

『ガツチャンもね〜ビビーって出せるんだよ、ビビー、ビビーつて、きやははははは！』

男鹿 辰巳

『電撃を出せる赤ん坊は1人で十分だつつうーの！』

べる坊

『だぶだー！』

2

東方 丈助（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『その赤ん坊、ひよつとしてスタンドか？まさか透明になつたりはしね〜よな〜？』

男鹿 辰巳

『透明になる？べる坊お前そんなことできんのか？』

べる坊

『だぶ〜？』

3

前田 大尊（作品：ろくでなしBLUES）

『男なら喧嘩タイマンでやるもんだろ!?』

男鹿 辰巳

『へつ！上等だ！べる坊手出すなよ！』

べる坊

『あいー！』

4

いぬまるくん（作品：いぬまるだしつ）

『・・・・・お前も着るのは嫌いか、同志よ…』

べる坊

『・・・・・あい！』

男鹿 辰巳

『とりあえずお前ら、パンツ履かせるぞ。ちょっと！待て！逃げる
な！』

5

×家庭教師ヒットマンREBORN!!?

リボーン

『あの、赤ん坊何か秘密がありそうだな？』

沢田 綱吉

『ひょつとして元マフィアってことはないよね？』

男鹿 辰巳

『マフィア？こいつは魔王の子だぜ！』

べる坊

『だぶだぶだー！』

『ヒルダの場合』

1

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

『メイド服か、前に一度来てみたことがあるぞ。』

ヒルダ

『お前がメイド服を？似合わないことこの上ないな。』

2

スヴェン＝ボルフイード（作品：BLACK CAT）

『お嬢さんの左目・・・なんだか俺の目と似ているな。』

ヒルダ

『ほう、面白い1つ手合させ願いたいものだな。』

3

ヒルダ

『坊っちゃんはいずれ人間界を支配する、魔王の息子だ。』

浦飯 幽助（作品：幽☆遊☆白書）

『・・・案外魔王の息子つてのはたくさんいるものなのかもな。』

4

ヒルダ

『お前は私が悪魔と言つても驚かないのだな。』

リナリー・リー（作品：D. Gray-man）

『仲間に吸血鬼がいるから慣れてるのかな？』

5

ララ・サタリン・デビルーク（作品：TO LOVEる—とらぶる

—

『よーし！ヒルダちゃん！同じお姉ちゃん同士がんばろー！オー

！』

ヒルダ

『悪いが、私のところは少々こじれてるが、……まあ姉という存在は悪くはない。』

『邦枝 葵の場合』

1

神楽（作品：銀魂）

『やつべー女番長とかマジかつкеーアル！姉御って呼んでもいいあるか？！』

邦枝 葵

『ええ！神楽ちゃんの方が十分すごいよ！悪魔でもないのにその力……契約でもしてるのかな？』

2

邦枝 葵

『銀さんも木刀を使うんですね？どんな技を使うか勉強させていただきます！』

坂田 銀時（作品：銀魂）

『おいやべ～よ、この子ちゃんとした技使う子だよ！木刀に絶対醤油とか入つてないよ！』

3

邦枝 葵

『鶴野さん悪魔がセクハラした時に何か罰を与えるとか、そんな札ありませんか？！』

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『な、なんだか随分、具体的な札だな……。』

4

空条 除倫（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『邦枝ちゃんさ～男選ぶときはマジで気をつけなよ～？』

邦枝 葵

『お・・・あいつは信頼できるやつです。だから、大丈夫です！』

5

クレア（作品：CLAYMORE）

『シングルリュウ？なるほど確かにすばらしい腕前だ。どうか手
合わせ願えないか？』

邦枝 葵

『高速剣・・・本当に速い！相手にとつて不足はない！よろしく
お願ひします！』

・べるぜバブの場合 + α

- ・キヤラクター
- ・古市 貴之
- ・神崎 一
- ・姫川 竜也
- ・東条 英虎

『古市 貴之の場合』

1

古市 貴之

『元生徒会長だと!? 何故だ! なぜ俺の学校には美人生徒会長はい
ないのだ!』

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

『石矢魔高校、不良高校か更生させがいがありさだな!』

2

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬくべく）

『君は憑依体質なんだな、あの大馬鹿イタコよりも素質があるか
もしれないな。』

古市 貴之

『いやいやそんなことはないですよ。……で、その女子高生

の話を詳しく教えてもらえますか!』

3

結城 梨斗（作品：T o L o v e r—とらぶる—）

『俺はララとモモ、ナナ達と一緒に暮らしてるなあ。まあそのせいでたまに大変な時もあるけど……』

古市 貴之

『なんだよそれ……最高じゃねえか!!? 俺なんて家にいるのはラミアとアランドランのオツサンだつてのに……』

4×ろくでなしBLOOS

山下 勝嗣

『お互いツレが有名だと色々とおもしれーよな!』

古市 貴之

『面白いつつ一か色々と大変だけど……それに何であいつの周りだけ女子があんなに集まるんだよ!』

沢村 米示

『俺らには一応彼女いるけど……黙っていた方がいいっぽいな。』

『神崎 一の場合』

1

神崎 一

『ああ? テメエどこの組のもんだ?』

雪麗（作品：ぬらりひよんの孫）

『あら？ 奴良組を知らないなんてあなたの組はどれだけ小さい組なんでしょうね？』

2

神崎 一

『テメエんとこの奴も赤ん坊連れてんのか？ 南比良高の奴といい今は赤ん坊と一緒に遊ぶのが流行つてんのか？』

獄寺 隼人（作品：家庭教師ヒットマンリボーン）

『なんぴらとか何とかは知らねえが10代目の真似にしたつて10代目に敵わねえんだよ！』

3

神崎 一

『これだけは使いたくなかったんだがな……しうがねえ俺の神崎 フラメンコをお見舞いしてやる！』

椿 佐助（作品：SKET DANCE）

『やれるものならやってみろ、僕のツバキエクスプロージョンで返り討ちにしてくれる！』

《姫川 竜也の場合》

1

姫川 竜也

『ほう、こいつは驚いたぜ、中川財閥の御曹司がまさかボリ公だつたとはな。』

中川 圭一（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

『こつちも驚いたよ。姫川財閥の御曹司がまさか不良だつたとは。』

2

姫川 龍也

『リーゼントは俺のポリシーだからな、常にセットアップしているぜ。』

東方 丈助（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『わかるぜ！俺もこの頭は俺の全てと言つても過言じゃあねーからな。いつも万全の状態だぜ！』

3

姫川 龍也

『ネットゲームだろうが闇のゲームだろうがどんな手を使つても勝てばいいんだよ。』

武藤 遊戯（作品：遊☆戯☆王）

『貴様がどんな手を使つても別に構わんが、俺に勝つならそんなものは通用しないつ！』

《東条 英虎の場合》

1

東条 英虎

『よお、お前強いんだつてな喧嘩しよーぜ！』

斎木 楠雄（作品：斎木楠雄のΨ難）

【こいつ本当に喧嘩のことしか考えてないな、燃堂とは違うタイプのバカだな。】

2

剣 桃太郎（作品：魁!!？男塾！）

『勝負を申し込まれたなら正々堂々受ける！それが男つてもんよ！』

東条 英虎

『へへっ、いいじゃねえか。男塾？だけつか？お前みたいのがわんさかいんなら行つてみてーな！』

3

東条 英虎

『は？俺に勉強を教える？な、何を言つてんだあんた・・・』

川藤 幸一（作品：ROOKI SE）

『おう！お前は勉強が苦手だと聞いたからな！まずはこのスイミーを・・・あ！待て！逃げるな！』

斎木楠雄のΨ難の場合

キャラクター

・斎木楠雄

(このキャラのセリフ時には【】を使わせてもらいます)

・燃堂 力

・海藤 瞬

・照橋 心見

(このキャラの心の声として（）を使わせていただきます)

『斎木 楠雄の場合』

1

ボツスン：藤崎 佑介（作品：SKET DANCE）

『斎木、困つたことがあつたらいつでも
俺たちスケット団を頼つてくれよ！』

斎木 楠雄

【困つてることか、年中この超能力の所為で困りはてているん
だがな。】

2

孫 悟空（作品：DRAGON BALL）

『オメエ超能力ができるのか？スッゲエ～なあ～！』

斎木 楠雄

【あなた瞬間移動できましたよね？】

3

一堂 零（作品：ハイスクール奇面組）

『君のその超能力すばらしいものだな！その個性大切にするべき
だ！』

斎木 楠雄

【僕からすれば超能力でもないのに何でそんなにホイホイ変身できるか知りたいんだが?】

4

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『あなたとはまた、ご一緒にお茶でもしたいですねえ。』

斎木 楠雄

【・・・スイーツにありつければ構わないが、今度は卑怯な真似するなよ?】

5

坂田 銀時（作品：銀魂）

『あ、そちら山崎〇人さん？いや、こつちは小栗〇で・・・。』

斎木 リアル 楠雄

【俳優リアルの人の話はやめろ。】

※オマケ

斎木 楠子

【・・・・・】

坂田 銀子（作品：銀魂）

『なあ？俺らつて中の人が・・・』

斎木 楠子

【そつちの声優リアルの話もやめろ。】

『燃堂 力の場合』

うずまき ナルト（作品：N A L U T O）

『お前もラーメン好きなのか？今度一楽のラーメンに連れてつて
やるつてばよ！』

燃堂 力

『お？そのラーメン屋美味しいのか？お？』

2

日々野 晴矢（作品：B O Y）

『ようおし！俺様に美味しいラーメン屋を紹介しろ！』

燃堂 力

『お？いいぜ、あまりの美味しさに死ぬんじゃねーぞ？お？』

3

越前 リヨーマ（作品：テニスの王子様）

『あんた、面白いテニスの打ち方するね？』

燃堂 力

『お？ どうか？普通に打つてるだけだけどな？』

『海藤 瞬の場合』

1

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬくべ）

『きみの守護霊は、お！チワワか中々珍しいなあ！』

海堂 瞬

『だ、だからチワワ・・・くつ！なぜ俺の本当の守護霊を誰も見よ
うとしない』

2
日々野 晴瞬

『おお！俺らの同志よ！共にダークリュニオンを滅ぼしてやろう！』

飛影（作品：幽☆遊☆白書）

『何を勝手に言っている？ダーク何ちゃんは知らん。勝手にやつてろ。』

3

海藤 瞬

『俺も昔は黒十字団の一員だった頃があつたな・・・。』

アレン・ウォーカー（作品：D. G r a y — m a n）

『そ、うなんですか？何だか黒の教団と名前が似てますね、ひょつとして、エクソシストだつたりしますか？』

『照橋 心見の場合』

1

照橋 心見

『ララちゃんのお母さんは宇宙一美しいって言われてるんだよね？少し興味あるな。（どれだけ、美しいか私が確かめてやろうじゃない！）』

ララ・サタリン・デビルーク（T o L o v e r—とらぶる—）

『じやあ今度会つてみる？私も照橋ちゃんのこと紹介したいなあ～！』

2

タルるート（作品：まじかる☆タルるートくん）

『オレタルるート、よろしくな姉ちゃん！』ジ～

照橋 心見

『え、ええこちらこそよろしく（・おふらない。子供はやつぱり苦手かな・・あれ？この子私の顔を見てない？一体どこを見て……）』

3

モンキー・D・ルフィ（作品：ONE PIECE）

『てるはし・・・・・）みだつけか？お前の名前？とにかく、よろしくな！』

照橋 心見

『ここみです。はい、こちらこそよろしくお願いします。（な、なにこの人も私を見ておふらないの！？）』

ジヨジヨの奇妙な冒険 第1部・第2部の場合

・キャラクター

第1部：ファンタムブラッド

・ジヨナサン・ジヨースター

(セリフ時はジヨナサンと略させていただきます)

・ロバート・E・O・スピードワゴン

(セリフ時はスピードワゴンと略させていただきます)

第2部：戦闘潮流

・ジヨセフ・ジヨースター

(セリフ時はジヨセフと略させていただきます)

・シーザー・ツエペリ

(セリフ時はシーザーと略させていただきます)

『ジヨナサン・ジヨースターの場合』

1

ジヨナサン

『君の仲間には吸血鬼がいると聞いてるのだが、大丈夫なのかい？』

アレン・ウォーカー（作品：D. Graman）

『大丈夫ですよ。彼はとても信頼できる仲間です！』

2

小早川 瀬那（作品：アイシールド21）

『ジョナサンさんもアメフトやっていたんですか!?』

ジョナサン

『いや、僕がやっていたのはラグビーだよ、コバヤカワ。』

3

ジョナサン

『水面の上に立っている！サクラ、君は波紋を使えるのかい!?』

春野 サクラ（作品：NALUTO）

『はもん？ いえ、これはチャクラを足に集中させてですね……』

4

竈門 炭次郎（作品：鬼滅の刃）

『呼吸を使った戦い方じょなさんさん！ 参考にさせていただきま

す！』

ジョナサン

『僕は君のように剣を使つたりはしないけど、それでも呼吸を使つて戦う者として遅れはとれないな！』

5

ジョナサン

『君のような女の子が吸血鬼のかい！ ……お願いがある。決

して悪には染まらないでくれ。』

赤夜 萌香（作品：ロザリオとヴァンパイア）

『大丈夫ですよ！ジョナサンさん！月音くんやみんなもいますか
ら！』

《ロバート・E・O・スピードワゴンの場合》

1

スピードワゴン

『テメエからはようく悪つたれた匂いがブンブンするぜー！』

志々雄 真実（作品：るろうに剣心）

『あ？雑魚は黙つとけテメエから殺してもいいんだぜ？』

2

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

『私の学校にそういうのに長けている先輩がいてな、あなたのそ
の帽子に仕込んでいるものもわかるのだ。』

スピードワゴン

『な、なに!? この帽子を見破つただと、お嬢ちゃんただもんじやあ
ねーな！』

3

スピードワゴン

『お、お前が屍鬼!^{グール}?だ、だが悪意は一切感じられないぜ!?』

青野 月音（作品：ロザリオとヴァンパイア）

『俺は妖怪と人間が一緒に暮らしていく世界を作りたいと思っていますから。』

『ジョセフ・ジョースターの場合』

1

ジョセフ

『オ、オレの女装より上手いだと!?ナギサ!お前やるなあ!』

潮田 楓（作品：暗殺教室）

『そ、そんなの全然嬉しくありません!』

2

ジョセフ

『頭脳戦なら負けないぜ!、おつと!そのノートに触るんじゃあねえー!怪しい匂いがブンブンするぜえー!』

夜神 月（作品：DEATH NOTE）

『ジョセフ・ジョースター……無駄に頭が切れるな……。』

3

ジョセフ

『お前みたいなチンチクリンな馬なんて吸血馬に比べれば怖くも何にもないもんねー。』

ミドリマキバオー（作品：みどりのマキバオー）

『し、失礼なやつなのね！その吸血馬とか言う奴つれてくるのねつ！』

4

ジョセフ

『俺のこの波紋は生まれつきらしいぜ！』

緑谷 出久（作品：僕のヒーローアカデミア）

『生まれつきですか・・・少し羨ましいです。い、いや落ち込むんじやない。肝心なのはここから何をするかだ！』

5

神楽（作品：銀魂）

『テメーもどうせアレだろ？普段はグータラしてやる気なんて出さないヤツだろ？』

ジョセフ

『、このガキの目まるで養豚場の豚を見るかのような目だ・・・なんてガキだ。』

『シーザー・ツエペリの場合』

1

キルア・ゾルディック（作品：HUNTER×HUNTER）
『スッゲエー！シャボン玉を武器にしてんの!?俺も電気を流し込んでいけるかな?』

シーザー

『君こそその見事なヨーヨーさばき、そういうえばジョセフも似たような武器を使っていたな。』

2

うずまき ナルト（作品：NARUTO）
『シャボン玉・・・・ウタカタのやつを思い出すつてばよ。』

シーザー

『何？俺の他にもシャボン玉を使うやつがいるのか？』

3

シーザー

『俺は父さんをクズのような男だと思っていた、だが実際は・・・・』

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『実際に話してみなければ、わからないこともあるよな・・・。』

ジヨジヨの奇妙な冒険 第3部・第4部の場合

・キャラクター

第3部：スター・ダスト・クルセイダーズ

・空条 承太郎
・DIO

第4部：ダイヤモンドは砕けない

・東方 丈助
・広瀬 康一
・虹村 億泰

『空条 承太郎の場合』

1

空条 承太郎

『テメーのスタンドはよく喋るんだな。』

麻倉 葉（作品：シャーマンキング）

『阿弥陀丸はすたんど？じやねーよ、俺の立派な相棒だ。』

空条 承太郎

『腕をへし折られたく無かつたら俺の前でイカサマしないことだな。』

アレン・ウォーカー（作品：D. G r a y—m a n）

『わ、わかりました。ちゅ、注意します。』

3

空条 承太郎

『やれやれ、俺の周りの犬はなんでこうも一癖あるやつが多いんだ。』

赤目（作品：銀牙—流れ星 銀—）

『イギーという奴、一度会つてみたいものだな。』

4

キン肉 スグル（作品：キン肉マン）

『時間を止める？ああ！ペンタゴンが似たようなことをしていたな！』

空条 承太郎

『……やれやれ、時間を止められる奴ってのは決して少なくはないらしいな。』

5

モンキー・D・ルフィ（作品：O N E P I E C E）

『ジヨジヨ～また一緒に合体技やろうぜ～!!』

空条 承太郎

『フツ。いいぜ、またラツシユ比べといこうじゃねーか！』

『DIOの場合』

1
DIO

『貴様吸血鬼か！このDIOの他に吸血鬼は必要なし！息の根を止めてやろう……。』

赤夜 萌香：裏（作品：ロザリオとバンパイア）
『貴様の様な下衆が私を倒すだと？身の程を知れ。』

2
DIO

『時間をも止め！さらに永劫を生きる吸血鬼であるこのDIOに勝るものは誰一人としていないのだ！』

ラビ（D. Gray— man）

『よくわかんないけど、クロちゃんとミランダを足して2で割つた感じさ～？』

3
DIO

『死神風情がこのDIOの命を取れるとでも思つてゐるのか？』

藍染 惣右介（作品：BLEACH）

『それほど傲慢だと、逆に怯えて いるように見えて しまうぞ。ディオ・ブランドー。』

4

D I O

『東洋の怪物か、主になるなどという戯言を吐いていると聞いているが?』

奴良 リクオ：夜（作品：ぬらりひょんの孫）

『ああ、そうだ。お前のようなやつじや、隣に立つことすら出来ない所だよ。』

5

フリーザ（作品：D R A G O N B A L L）

『ふむ吸血鬼ですか。どうでしよう私の部下くらいにはして差し上げますよ?』

D I O

『貴様が私の上に立つだと? 笑わせる常にこのD I Oこそが上に立つ存在だ!』

《東方 仗助の場合》

1

前田 大尊（作品：ろくでなしBLUES）

『お、その髪型なかなかイカすじやねーか!』

東方 仗助

『お、この髪型のよさがわかるとはあんた見る目あるなあ!』

2

ボボボーボ・ボーボボ（作品：ボボボーボ・ボーボボ）

『ふん！リーゼントなんぞ所詮アフロの敵ではない！』

東方 仗助

『テメー今俺のことなんつった!!』

3

爆豪 勝己（作品：僕のヒーローアカデミア）

『雑魚が！俺に勝てると思つてのか！あ!?』

東方 仗助

『なんつかよ＼爆発系の能力者は性格に一癖あるやつが多いのか？』

4

春野 サクラ（作品：NARUTO）

『殴つて治すなんて、そんな治し方聞いたことないわ‥。』

東方 仗助

『まあ俺の場合殴治す殴つつか殴直す殴の方が意味的に近いですからね＼。』

5

ララ・サタリン・デビルーグ（作品：To Loveるーとらぶるー）

『あたしはね、デビルーグ星から来た、宇宙人なんだ！』

東方 仗助

『ア＼ハイハイソウナンデスカ＼。ひよつとしてミキタカのお姉さんだつたりします？』

『広瀬 康一の場合』

1

三雲 修（作品：ワールドトリガー）

『広瀬先輩の能力は色々な応用がありそうですね、すごいです。』

広瀬 康一

『そ、そうかな／＼それを言つたら三雲君もその年で隊長をしてるじゃないか。』

2

橋 万里香（作品：ニセコイ）

『楽様への愛！これは尽きることはありませんわ!!』

広瀬 康一

『橋さんを見ると、少しトラウマ的なものを思いだすなあ・・・うう鳥肌が立つてきた。』

3

ゼブラ（作品：トリコ）

『音を武器にするだあ？餓鬼どんなふうに武器にするかちょっと見してみろよ。』

広瀬 康一

『い、いや僕の場合、口から直接だとそんな感じじゃなくてですね・・・。』

《虹村 億泰の場合》

1

虹村 億泰

『んま～い!! 幸平あ、お前絶対料理の才能あるよお!!』

幸平 創真（作品：食戟のソーマ）

『へへっ！ そ～い反応だとこつちも作りがいがあるぜ！』

2

虹村 億泰

『俺の兄貴はよお～肩だつたけど立派な兄貴だつたんだよ！』

ケンシロウ（作品：北斗の拳）

『俺の兄も最後まで自分の信念を貫いた男だつた。』

3

桑原 和馬（作品：幽☆遊☆白書）

『なあ、億泰。俺たちつて案外似てんのか？』

虹村 億泰

『ええつと？ バカで不良で・・・おお確かに共通点が多いぜ！』

二セコイの場合

・キヤラクター

・桐崎 千棘
・小野寺 小咲
・鶴 誠四郎
・橘 万里花

『桐崎 千棘の場合』

1

桐崎 千棘

『トリツシユ……ちやんだつけ？同じギャングの娘同士一度話してみたいわ！』

ジヨルノ・ジヨバーナ（作品：ジヨジヨの奇妙な冒険）

『確かにギャングの娘というのは中々いませんからね。トリツシユも喜ぶかもしません。』

2

桐崎 千棘

『その歳でギャングのボス!? 苦労してるわね……』

沢田 綱吉（作品：家庭教師ヒットマンリボーン）

『そうなんですよ……というか！まだボスになるつて決まったわけじゃないですかね！』

影山 飛雄（作品：ハイキュー!!）

『あの時のリベンジをさせてもらいいますっ!』

桐崎 千棘

『ええ、いいわよ! いくらでもかかるつて来なさい!』

うずまき ナルト（作品：N A L U T O）

『美味しいラーメン? 一楽のラーメンの味は絶品だつてばよ!』

桐崎 千棘

『そこまで言うなんて、どんなに美味しいのか1度行つてみたいわね!』

葦月 伊織（作品：I"s）

『ロミオとジュリエット見たよ、千棘ちゃんはすごいね。演技が

上手で役者に向いてると思うよ。』

桐崎 千棘

『そんな! 伊織ちゃんの方がすごいよ! それにあの演技は相手があいつだつたから・・・・つてうわあああああ! な、なんでもない! //』

《小野寺 小咲の場合》

1

坂田 銀時（作品：銀魂）

『実家が和菓子屋？それじゃあ宇治金時丼一つよろしく。』

小野寺 小咲

『宇治金時丼？ええっと、どんな食べ物何ですか？』

2

幸平 創真（作品：食戟のソーマ）

『見た目が良くて味が悪い！？そんなゲキまず料理もあるのか・・・参考になるぜっ！』

小野寺 小咲

『あ、あまり参考にしないでほしいんだけど・・・／＼』

3

小野寺 小咲

『久しぶりだね、日向くん！ビーチバレー以来だね。』

日向 翔陽（作品：ハイキュー!!）

『つつつつつつは、ハイ！オシサブリですっ!!』

4

小野寺 小咲

『麗日ちゃんつて私の妹に似てる気がする・・・何でだろう？』

麗日 お茶子（作品：僕のヒーローアカデミア）

『ひょつとしておもちか？その子おもち好き系女子か！？』

5

小野寺 小咲

『私の友達に、好きな・・・あ、ある人にすごく積極的な人がいる

だけど私も積極的になつた方がいいのかな・・・』

東城 紜（作品：いちご100%）

『わかるよその気持ち。わ、私も積極的じやあないから・・・』

《鶴 誠士郎の場合》

1

鶴 誠士郎

『お嬢様に手を出すものは私が許さんっ！』

獄寺 隼人（作品：家庭教師ヒツトマンREBORN!!）

『俺だつて！10代目に何かあつたらタダじゃおかねえ！』

2

ボボボーボ・ボーボボ（作品：ボボボーボ・ボーボボボ）

『この俺が毛根の貴公子ボボボーボ・ボーボボだつ!!』

鶴 誠士郎

『声はクロード様なのに容姿、性格がここまで違うなんて・・・』

3

鶴 誠士郎

『私はお嬢様にもつと女の子らしくなれと言われているんだ。』

潮田 渚（作品：暗殺教室）

『僕はもっと男らしくなりたいです・・・』

4

鶴 誠士郎

『あなたが黒 ブラック 猫 キャット か、噂に聞く銃の腕前見してもらいます!』

トレイン＝ハートネット（作品：BLACK CAT）

『黒 ブラック 虎まさか女の子だとは思わなかつたな・・・』

『橘 万里花の場合』

1

橘 万里花

『お父様から聞いてますわ、亀有には超大問題警察官がいる

と・・・』

両津 勘吉（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

『い、一体誰のことだろくなあくわ、わからんnaあく』

2

クラピカ（作品：HUNTER×HUNTER）

『組織のお嬢様の護衛なら、私にも経験がある。』

橘 万里花

『鎖を使う人はそういう職につく方が多いのかしら?』

3

橘 万里花

『ハムスターあの生物だけはダメですわ!好きにはなれません

!』

斎木 楠雄（作品：斎木楠雄のゆ難）

【その判断は正解だ。多分腹黒いと思うしな】

4

潮 火ノ丸（作品：火ノ丸相撲）

『ワシは千葉県に住んでるんじやが、Yさんちゅう人が有名らし
いんじや。』

橘 万里花

『その方・・・わたくし知ってるかもせんわ。』

めだかボックスの場合

・キャラクター

・黒神めだか

・人吉 善吉

・球磨川 稔

*このキャラはセリフ時「『』」のように表記します

『黒神 めだかの場合』

1

黒神 めだか

『目立たたくない？なら箱庭学園に来るのはどうだ？私が紹介してやるぞ！』

斎木 楠雄（作品：斎木楠雄のΨ難）

【お前からの紹介というだけでとても目立ちそうなんだが？】

2
黒神 めだか

『私は正しくなんかない、ただ正しくあろうとしているだけだ!!』

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『素晴らしい考え方ですね、黒神さん！その心ぜひ大切にしてください。』

3

黒神 めだか

『雲仙先輩といいお前といい、風紀委員長には過激的な奴が多いな。』

雲雀 恭弥（作品：家庭教師ヒットマンREBORN!）

『君みたいな元生徒会長も珍しいと思うけどね。』

4

黒神 めだか

『ほら～おいで～怖くないよ～♪』

ナナ・アスター・デビルーク（T.O. Loveる—とらぶる—）

『お、おい動物達が怖いって言つてるぞ！』

5

黒神 めだか

『私は最近になつてようやく自由を知れた否、手に入れたのだ！』

モンキー・D・ルフィ（作品：ONE PIECE）

『自由はやっぱいいよな～！あ、でも1番自由になのは俺だぞ
！この世で1番自由なのが海賊王だからな！』

*おまけ

・擬音同士

モンキー・D・ルフィ

『俺モンキー・D・ルフィ！海賊王になる男だ！』／ドンッ!!

黒神 めだか

『私は黒神めだか！箱庭学園一年十三組！』

／凜ツ!!

『人吉 善吉の場合』

1

キルア＝ゾルディック（作品：HUNTER×HUNTER）
『アンタ、俺が元殺し屋つて言つても驚かないんだね？』

人吉 善吉

『そうか？まあ、友達に殺人鬼いるんでね。』

2

人吉 善吉

『めだかちゃんを守る！今までそうしてきたし、これかもそうしていく！』

コブラ（作品：コブラ）

『ヒューッ！お前中々粋なことするじやねーか。そういうの嫌いじゃあないぜ！』

3

人吉 善吉

『開盟学園の生徒会長か、一度会つて話がしたいな。』

ボツスン（藤崎 祐介）（作品：SKET DANCE）

『なあにい？あんな堅物野郎となんて話しても無駄だぜ！』

4

両津 勘吉（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

『金のことならわしに任せろ！ガッポリ稼いでやるぞ！』

人吉 善吉

『噂には聞いてたけど、喜界島と同等、下手したらそれ以上にお金への執着心だな……。』

5

人吉 善吉

『デビルアイもとい欲バラサイトシーライング 視力！今はもうないスキルだけど、逆にそれが良かつたのかもな。』

春野 サクラ（作品：NARUTO）

『他人の視界を見れるって言う点だと、いのの術に似てるかしら？』

『球磨川 稔の場合』

1 ララ・サタリン・デビルーク（作品：To Loveるーとらぶるー）
『裸エプロン？あー私それしたことあるよ！』

球磨川 稔
『甘いね、ララちゃん。今僕の好みは手ブラジーンズだ！』

2 緋村 剣心（作品：るろうに剣心—明治浪漫譚—）
『拙者はこの目に見える全ての人を守りたい。』

球磨川 稔

『甘えよ。が、その甘さ嫌いじゃain'tぜ。』

3

DIO（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『貴様ら人間はこのDIOの食糧にすぎん！』

球磨川 稔

「『さつすが、エリート様。言うことが僕みたいな小物と違つて
ご立派で。』

4

リナリー・リー（作品：D. Gray-man）

『球磨川君も私を頼つてね、私達は仲間なんだから。』

球磨川 稔

「『ねえ、リナリーさん！リナリーさんって彼氏とかいるのかい
？』

5

孫悟空（作品：DRAGON BALL）

『落ちこぼれだつて、努力すればエリートを超えるかもよ？』

球磨川 稔

「さつすが僕の尊敬する人だ、そうさ僕はめだかちゃんと勝つて
やる！嫌われ者でも憎まれつ子でもやられ役でも主役を張れるつて
証明してやるつ！！」

ムヒヨとロージーの魔法律事務所の場合

・キヤラクター

・六氷 透（ムヒヨ）

・草野 次郎（ロージー）

・円 宙継（エンチュー）

*セリフ時は○内の名前を使わせていただきます

『六氷 透の場合』

1

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『魔法律……魔物などを召喚し、靈を成仏させるものか……危険ではないのか？』

ムヒヨ

『ヒッヒ。あいにくこつちには鬼の手なんていうものは無いんでな。』

2

ムヒヨ

『お前のその腕……人体無断寄生の罪により……』

アレン・ウォーカー（作品：D. Gray-man）

『ちよつ！無断じゃないです！無断じゃないです！ちゃんと自分の意思で発動できますから！』

3
うずまき ナルト（作品：NARUTO）

『お前、どれだけの口寄せ動物がいるんだってばよ!?』

ムヒヨ

『ヒツヒ、そんな御大層なもんじやねえよ。

まあチャクラの代わりに▣煉▣を消費するつていう点では似てるかもな。』

4
ムヒヨ

『ヒツヒ、まさか蠅王の息子がこんな赤ん坊とはな。』

男鹿 辰巳（作品：べるぜバブ）

『ああ？ べる坊をなめんじやあねえぞ？ こいつの電気は半端じやねーからな！』

べる坊

『アイ！』

5
ムヒヨ

『おいネウロ。俺と契約しねえか？ 煉▣ならある限りくれてやる。』

脳噛 ネウロ（作品：魔人探偵脳噛ネウロ）

『いや結構だ。我が輩が欲するのは▣煉▣ではなく▣謎▣だからな。』

『草野 次郎の場合』

1 ローリー
『君が天才と言われてるやらちやんだね。天才って言うとやっぱ
りムヒョを思い浮かべるなあ』

花開院 ゆら（作品：ぬらりひょんの孫）

『ムヒョつてあのチビ玉ねぎのことやろ？あんなのと一緒にすな
！』

2 ローリー

『来生さんは女怪盗なんですよね？よかつたら僕の変装道具使い
ませんか？』

来生 瞳（作品：キヤツツ??アイ）

『気持ちはあるがたいたけど……ムヒョ君が言っていたとおりロー
ジー君は変装の方に難ありね……。』

3

ローリー

『ひいいい！ゆ、幽靈！お、落ち着いて。まずは靈の動きを止め
てから……。』

麻倉 葉（作品：シャーマンキング）

『草野、大丈夫だ。阿弥陀丸はオイラ達の味方だ。だからその札はしまつとけ。』

4
ロージー

『僕もムヒョみたいに煉が多かつたら色々出来たんだろうなあ』

朽木 ルキア（作品：BLEACH）

『……いや、お前も一護と同じようにとてつもない潜在能力を秘めているかもしねんぞ。』

5
ロージー

『お互い、相棒の隣に並んでも誇れるようにならんばろう！』

桂木 弥子（作品：魔人探偵脳噠ネウロ）

『はい！“相棒がドSだけど挫けず頑張ろうの組合”の会員同士で頑張りましょう！』

《円 宙継の場合》

1
エンチュー

『カルマ君？僕の顔に何かついてる？』

赤羽 業（作品：暗殺教室）

『渚以上の女顔はいないと思つてたけど、世界は広いね～』

2

エンチュー

『自分が過去にした罪は一生消えないんだ・・・・』

緋村 剣心（作品：るろうに剣心—明治浪漫譚—）

『それでも前を向いて生きていくでござるよ。』

3

エンチュー

『暗い闇の中、友達が・・・親友が僕を助けてくれたんだ！』

うちは サスケ（作品：NARUTO）

『・・・なら、今度はお前がその友を助けてやればいい。俺も
いざれ借りは返すつもりだしな。』

4

エンチュー

『僕はまだ魔法律家になる夢を諦めていないんだ！絶対になつ
てやる！』

川藤 幸一（作品：ROOKIES）

『そうだ！夢にときめけ！明日にきらめけ！俺はお前を応援する
ぞ！』

5

緑谷 出久（作品：僕のヒーローアカデミア）

『才能は僕にはない・・・でも、絶対にヒーローになるんだ!』

エンチュー

『君は僕と同じ境遇なんだね・・・お互いに頑張ろう!努力で才能の壁を超えてやろう!』

B L A C K C A T の場合

・キャラクター

・トレイン＝ハートネット

・イブ

・ズヴェン＝ボルフィード

※掛け合い時はトレイン、ズヴェンとそれぞれ略させていただきます。ご了承ください。

『トレイン＝ハートネットの場合』

1

キルア＝ゾルディック（作品：HUNTER×HUNTER）

『電磁銃レーベルガンか俺も銃を使えば出来るかな？』

トレイン

『出来たとしても、ちゃんと当たらなければ意味ないぜ。打ち方を教えてやろうか？』

2

トレイン

『あんたも銃を使うのか、早打ち勝負でもしてみるか?』

冴羽（作品：シティハンター）

『別に構わないが、やるからには負けるつもりはねーぞ?』

3

トレイン

『覚悟しな、不幸を届けにきたぜ。』

ラツキーマン（作品：とつてもラツキーマン！）

『不幸なんて、私のラツキーで吹き飛ばしてやるのだ!』

4

トレイン

『超高額の賞金首なのに、銃も電気も効かないとか反則だろ!?』

モンキー・D・ルフィ（作品：ONE PIECE）

『あつはははは！ そう簡単に捕まつてたまるか〜!!』

5

ララ・サタリン・デビルーカ（作品：To Loveるーとらぶるー）

『私のママはねとっても美人なんだ。写真見る？』

トレイン

『へえ～どれどれ……つてセファイリア!? はあ!? ちよつ・・・

あいつ子持ちだつたのかよ!?

『イブの場合』

1

ニツチ（作品：テガミバチ）

『もう!!何であなたも髪を武器にして戦うの!?』

イブ

『何でつて言われても・・・別に競うつもりはないよ?』

イブ

『あなたの戦い方・・・参考になるかもしね。少し見せてもらつてもいい?』

サニー（作品：トリコ）

『仕方ねえな。れ!のつくしい! 戦い方存分に見とけよ!』

3

ゴン＝フリーカス（作品：HUNTER×HUNTER）

『子供だからってなめないでよね!!』

イブ

『女の子だからって弱いって決めつけないで。』

4

アレン＝ウォーカー（作品：D·Gray-man）

『イノセンスもナノマシンも使い方一つで善にも悪にもなります。』

イブ

『大事なのはどう使うか、大丈夫悪いことには使わないから。』

5

イブ

『話には聞いていたけど、ここまで似てるなんて・・・』

ヤミ（作品：To Love—とらぶる—）

『とても他人とは思えませんね・・・。』

『ズヴェン＝ボルフィードの場合』

1

ズヴェン

『紳士ならば女性の扱いは気をつけなきやな。』

サンジ＝ヴィンスマート（作品：ONE PIECE）

『へえ、お前よくわかつてるじゃねーか。レディは丁重に扱わないといけないぜ。』

2

迅 悠一（作品：ワールドトリガー）

『あんたも未来を見れるんだつて？』

ズヴェン

『予見 眼はもう使えねえんだ、その代わりに支配眼を取得した

がな。』

3

ズヴェン

『親友からもらつたこの眼は今でも世話になつてゐる。』

はたけ カカシ（作品：NARUTO）

『……まあお互ひ親友の眼は大切にしていこうつてことで。』

4

両津 勘吉（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

『元刑事？？？つたく僕のようにちゃんとしないからそうなるのだ

！』

ズヴェン

『ちょっと待て！あんたより絶対俺の方がちゃんとしてたぞ！？』

5

ズヴェン

『お嬢ちゃんの周りには危険はないか？あつたら俺ら掃除屋に任せな。』

西蓮寺 春菜（作品：T.O.Loveる——とらぶる——）

『ありがとうございます！でも、私の周りには頼もしい人達ばかりなので多分大丈夫ですよ。』

トリコの場合

・キャラクター

・トリコ

・ココ

・サニー

・ゼブラ

『トリコの場合』

1

アレン・ウォーカー（作品：D. Gray-man）

『あなた達四天王の中にAKUMAがいると聞きましたが…』

トリコ

『ん？ああグルメ細胞の悪魔のことか？心配すんな！そんなに物騒なもんじやあねえからよ！』

2
トリコ

『さてと使うとするか。ナイフとフォーケ！』

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『ならば俺も使うとしよう。いでよ！鬼の手！』

トリコ

『炎を使い、さらにその額の目……美食會のあいつを思い出す
ぜ……』

飛影（作品：幽☆遊☆白書）

『美食會？何を言っている、戯言をほざくな。』

4

トリコ

『うつひよー！美味そう！この世の全ての食材に感謝を込めて……
いただきます！』

幸平 創真（作品：食戟のソーマ）

『あんたいい食べっぷりだなあ！御粗末っ!!』

5

トリコ

『また一緒に狩りにでも行こうぜ！』

モンキー・D・ルフィ（作品：ONE PIECE）

『それ面白そうだな！また美味しい肉くいてーな!!』

《ココの場合》

1

ココ

『僕が危険な猛毒を持っているのに、君は警戒をあまりしてないのは何故だい？』

ジヨルノ・ジヨバーナ（作品：ジヨジヨの奇妙な物語）

『僕の仲間にも危険なウイルスを持つ人物がいますから。』

2

リボーン（作品：家庭教師ヒットマンリボーン）

『毒使いか。ビアンキのポイズンクッキングと同等かそれ以上だな。』

ココ

『ポイズンクッキング？ 毒を持って調理する・・・みたいなものなのかな？』

3

石田 雨竜（作品：BLEACH）

『猛毒を使う？た、頼むから毒は撒き散らさないでくれよ・・・』

ココ

『大丈夫。仲間には危害を加えないよ。何か毒にトラウマでもあるのかい？』

4

ココ

『僕は占いをやつていてね、君のことも占つてあげようか？』

緑間 晋太郎（作品：黒子のバスケ）

『結構なのだよ、おは朝の占いほど信用できるものはないのだよ。』

5

ヒソカ（作品：HUNTER×HUNTER）

『予言しよう君は踊り狂つて死ぬ。』

ココ

『ふざけた予言感謝するよ。代わりにお前の未来でも占つてやろうか。』

『サニーの場合』

1
サニー

『リナリーリーって言つたか、空中を華麗に舞うその戦い方・・・つく
しい!!』

リナリーリー（作品：D. Gray-man）

『ど、どうも。どこのお兄ちゃんもみんな一癖ありそうな人達
だなあ・・・。』

2

サニー

『魔王の髪^{サタンヘア}、気をつけなこいつは一本一本が食欲の塊だ!』

脳噛^{サタンヘア} ネウロ（作品：魔人探偵脳噛ネウロ）

『魔界にも同じ捕食の方法を取るものがいるぞ。人間だが魔界の
者と同じ捕食方法を取るとは中々面白い。』

3

ボボボーボ・ボーボボ（作品：ボボボーボ・ボボボーボ）

『見せてやろう俺の鼻毛真拳を！』

サニー

『うつわつ!! キッショ!! キシヨさMAX! おいこつちくんna!!』

4

サニー

『タコの怪物で触手が自由自在だあ？まるで四獸のあいつだな、
とりあえず一言、その触手キッショーいっ!!』

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『にゅや!? ちよつとサニーサン！ キシヨいは言い過ぎですよー。キ
シヨいはー!』

5

広瀬 宏一（作品：ジヨジヨの奇妙な冒険）

『髪を操るんですか、えつと・・・サニーサンて僕を監禁したりと
かします?』

サニー

『はあ？ 監禁？ んなことして何になるつてんだよ。お前大丈夫か
？』

《ゼブラの場合》

1

坂田 銀時（作品：銀魂）

『ギャーギャーやがましいわあ！ 発情期ですか？ このヤロー。』

ゼブラ

『テメエ・・・あんまり調子に乗つたこと言つてるとぶつ飛ばすぞ
!!』

2
ゼブラ

『俺に適応しな！・適応出来なきやお前は死ぬだけだ！』

藍染 惣右介（作品：BLEACH）

『傲慢だな、君こそ私の靈圧に適応出来るのかな？』

3

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

『音が武器か、私の周りにも言葉や音を武器にする輩が多いぞ！』

ゼブラ

『なら、戦つて噛み締めな。そいつらと俺との圧倒的な力の差をなあ。』

4

リューク（作品：DEATH NOTE）

『お前人間のなのに“死の間際の音”が出せるのかおもしれー！なんでお出せるようになつたんだ？』

ゼブラ

『死神が何を言うのかと思えば……そんなもん生物を殺しまくつたに決まつてんだろ！』

5

ゼブラ

『その馬、ダルマホースの代わりにちょうどいいな。乗り心地も良さそうだ。』

ラオウ（作品：北斗の拳）

『貴様風情が黒王号を乗りこなせると思つてゐるのか？』

地獄先生ぬくべの場合

- ・キヤラクター
- ・鶴野 鳴介
- ・玉藻 京介
- ・ゆきめ

『鶴野 鳴介の場合』

1

鶴野 鳴介

『あなたが噂の熱血教師ですか。なるほど、とても生徒思いの教師なのですね！』

川藤 幸一（作品：ROOKIES）

『あなたこそ、生徒達を守るため化物を相手に戦つていると聞いてますよ！』

2

殺せんせー（作品：暗殺教室）

『あなたも食生活に困っていると聞きましたね……そこでポケツトティツシュを油で揚げてみてはどうでしょう！』

鶴野 鳴介

『そんなもの食えるわけ…………いや案外いけるか？』

3

鶴野 鳴介

『幽霊を憑依して戦うシャーマンか、実物を見るのは初めてだ。』

麻倉 葉（作品：シャーマンキング）

『オイラもお前みたいな左手を持つてるやつは初めて見たぞ、すごい靈力だなあ。』

4

両津 勘吉（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

『その鬼の手とやらでちやちやつと金稼ぎでも一緒にしようぜ』。

鶴野 鳴介

『そ、そうか？ い、いやそんなこといかん！ というかあんたはそういうことを止める立場だろ！』

5

鶴野 鳴介

『くそッ！ なぜだっ！ お前も新しい人生を作つていけばいいのに！ それなのにつ！』

藤原 佐為（作品：ヒカルの碁）

『いいのです鶴野鳴介。それが世の理というのなら私はこの現世で私が出来ることをしていきます。』

『玉藻 京介の場合』

1

ヴィンスモーク・サンジ（作品：ONE PIECE）

『うちのチヨツパーといい、お前といい医者は人間じやねえやつの方が多いのか？』

玉藻 京介

『私のこれは人間世界で紛れるためのものにすぎない。役に立つてはいるがな。』

2

浦飯 幽助（作品：幽☆遊☆白書）

『奴獨りは知性的なヤーハンなんだな』

三葉只介

——何時も冷静であることか好意というものがた

3

王藻京介

には計り知れない力があるのか。』

うずまきナルト（作品：NARUTO）

卷之三

4

王漸 京介

人間と姫恒の血が混ざるか存在か お前も中々興味があるな

『ん？なんだ俺の百鬼に入りたいのか？』

1

玉藻
京介

私は人間の感情のその先にある。可能性の大きさを感じたのだ！

!

脳噛 ネウロ（作品：魔人探偵 脳噛ネウロ）

『そう、それが化け物はない。人間の魅力だ。』

『ゆきめの場合』

1

ゆきめ

『あなた鶴野先生と声が似てるわね。でもいくら声を似せようと私の恋心は掴めないわ！』

トリコ（作品：トリコ）

『いや！なんのことだよ！別に意識して変えてるわけじゃねーよ！』

2

ゆきめ

『あの～アンナさんは麻倉さんのい、許嫁なのよね。何かアドバイスをくださいっ!!』

恐山 アンナ（作品：シャーマンキング）

『そんなに大したことはしていないわ。強いてゆうなら相手への信頼と愛は欠かさないことね。』

3

ゆきめ

『みぞれさんお互い恋する雪女頑張りましょーね！』

白雪 みぞれ（作品：ロザリオとヴァンパイア）

『そうだな。恋する雪女の強さをみてやろう。』

4

則巻 アラレ（作品：D r. スランプ）

『およよ？ あんたなんだか冷たいね？』

ゆきめ

『ヒツ！ ゾ、 座敷わらし!? また何かするの!? もう勘弁して！』

5

ゆきめ

『たとえ人間と妖怪でも愛さえあれば結ばれるって証明してやる
わ！』

ララ（作品：T o L o v eるーとらぶるー）

『そうだよ！ 私だって地球出身じゃないけど、 リトのことが大好
きだもん！』

銀魂の場合

- ・キヤラクター
- ・坂田 銀時
- ・志村 新八
- ・神楽

《坂田 銀時の場合》

1

黒崎 一護（作品：B L E A C H）

『ありがとう、斬月。あんたは俺だ。』

坂田 銀時

『ありがとう、洞爺湖仙人。あんたは・・・誰だ。』

2 坂田 銀時

『かくめくはくめく波ー!!』

孫 悟空（作品：D O R A G O N B A L L）

『おめーも、かめはめ波が打てるのか!?ブウみてえなやつだな!』

3 坂田 銀時

『宇宙海賊だあ？春雨みたいなやからじやねーよな?』

コブラ（作品：スペースコブラ）

『春雨つてのは知らねーな。料理の名前か?』

没案・正直どちらにするか迷つてどっちも載せようと思ったもの

坂田 銀時

『金丸？お前！金丸かつ！ どこ行つてたんだよ今まで～』

コブヲ

『か、金丸？お前さん何言つてんだ!?』

4

ジョセフ・ジョースター（作品：ジョジョの奇妙な冒険）

『ジャパニーズサムライか。何か俺と声が似ているなあ？』

坂田 銀時

『おい、やめろつて似たような掛け合いゲームでもやつてんだから。』

5

緋村 剣心（作品：るろうに剣心）

『お主もまた過去を乗り越えようとしているのでござるな』

坂田 銀時

『別にそんな御大層なもんじやねえよ。ただ昔より背負うものが
増えただけだ。』

『志村 新八の場合』

1

志村 新八

『あなたを見るとパンデモニウムさんを思い出します。元気にしてるかな。』

東城 綾（作品：いちご100%）

『ぱ、パンデモニウムさん？想像がつかないけど私と似ているのかな？』

2

志村 新八

『やつぱりツッコミの存在は重要なんですよ！』

古市 貴之（作品：べるぜバブ）

『その通り！それなのにあいつらはいつもひどいことばかりつ！』

3

ナナ・アスター・デビルーク（作品：To Loveる）

『うちの姉上は料理の腕が…少しな…』

志村 新八

『僕の姉上もダークマターという料理を作りますよ…』

4

志村 新八

『ランキング回ではお世話になりましたああああ!!』

ケンシロウ（作品：北斗の拳）

『ランキング？志村何を言つてるんだ？』

5

キン肉 スグル（作品：キン肉マン）

『わしの素晴らしさを歌声を聞くがいい！』

志村 新八

『歌だつたら負けませんよ！お通ちやんの歌を完璧に歌つてみせます！』

『神楽の場合』

1

ゴン＝フリークス（作品：HUNTER×HUNTER）

『ジンは・・俺の親父はすつごいハンターなんだ！』

神楽

『私のハゲ親父も似たようなことやつてるアルよ』

2
神楽

『お互いバカ兄貴には苦労するね』

黒神 めだか（作品：めだかボックス）

『ああ、優秀な方ではあるんだがな・・・』

3

桂木 弥子（作品：魔人探偵脳噠ネウロ）

『うわあ！神楽ちゃんよく食べるね！』

神楽

『お前こそ、私くらい食べる女は初めてみるね！』

4

奴良 リクオ・夜（作品：ぬらりひよんの孫）

『定春は犬神なのか・・・お前は定春のことを大事にしてやれよ。』

神楽

『何を心配してるので知らないけど、心配ご無用ね！定春は私の大切な家族アル！』

5

ベジータ（作品：DRAGON BALL）

『貴様のような小娘が戦闘民族だと？いいだろう俺がその実力試してやろう！』

神楽

『黙つとけや！このトンガリ頭！私は守るためにこの力を使うね！』

暗殺教室の場合

・キャラクター

・殺せんせー

・潮田 渚

・雪村 あかり（茅野 力エデ）

*セリフ時は○内の名前を使わせていただきます。

・赤羽 カルマ

『殺せんせーの場合』

1

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬ～べ～）

『姿がタコだらうだと生徒思うあなたのその心は立派な教師だ
!!』

殺せんせー

『ヌルフフ、ありがとうございます。鶴野先生こそとても立派な
教師です。私も見習いたいですねえ～。』

2

坂田 銀時（作品：銀魂）

『甘いものは正義何だよ!!』

殺せんせー

『その通りです！甘い物だけで生きてゆけますとも!!』

3

トリコ（作品：トリコ）

『なんだあ！このタコオ!?捕獲レベルはどれくらいだ?』

殺せんせー

『にゅや!ト、トリコさん食べようとしないでください!』

4

殺せんせー

『あなたの狙撃の腕も中々ですねえ〜』

ボツスン（作品：SKET DANCE）

『へつ！あなたの生徒とにだつて負けない自信があるぜ、殺せんせー！』

5

殺せんせー

『またが一緒に入間でお茶しませんか？』

斎木 楠雄（作品：斎木楠雄の難）

【今度はせこい真似するなよ?】

《潮田 痞の場合》

1

桐崎 千棘（作品：ニセコイ）

『あなたもそんな格好して！鶴もあなたももつと女の子らしい格好をしなさい！』

潮田 痞

『うう、僕は男なんだけどなあ・・・』

2

キルア・ゾルディック（作品：HUNTER×HUNTER）

『あんた殺し屋の才能があるね』

潮田 渚

『そうだね。でも僕は殺し屋じゃなくて先生になりたいんだ！』

3

脳噛 ネウロ（作品：魔人探偵 脳噛 ネウロ）

『なるほど貴様が渚か確かにいじめがい・・・人に好かれそうな奴だ』

潮田 渚

『今、いじめがいがあるつて言いかけましたよね!? カルマと同じタイプだなあこの人・・・』

『茅野力エデの場合』

1

志々雄 真実（作品：るろうに剣心）

『お前の復讐の炎も中々のもんだつたろうに、自ら力を手放すとわな。』

茅野力エデ

『・・・私はもう間違えないみんなと一緒に学んで行くつて決めたんだ！』

2

ナナ・アスター・デビルーグ（作品：To Loveる）

『ひ、貧乳だからってバカにすんじゃねーぞ!!』

茅野 カエデ

『そ、うだ！そ、うだ！巨乳撲滅するべしつ!!』

3

鵜 誠四郎（作品：ニセコイ）

『よろしくお願ひします茅野様！か、茅野様？』

茅野 カエデ

『きよ、巨乳・・・ハツ！危ない危ない！今、鵜さんに殺意が湧くところだつた！』

《赤羽カルマの場合》

1

川藤 幸一（作品：ROOKISE）

『人生に目標があるなら、堂々と口に出して言うべきだぞ！それは決して恥ずべきことじやないんだからな！』

赤羽 カルマ

『あんたも中々だね～。うちのタコ先生とどつこいどつこいだよ。』

2

赤羽 カルマ

『赤ちゃん連れてる不良なんて初めて見たよ、あんた面白いね。』

男鹿 辰巳（作品：べるぜバブ）

『お前んとこの先公も結構珍しいぜ』

雲雀 恭弥（作品：家庭教師ヒットマンリボーン）

『君みたいな不良は幾度となく排除してきたよ』

赤羽 カルマ

『へえ、うちの学校にはあんたみたいな人いなかつたからなあ、
じやあ今までの奴らと同じか試してみなよ』

遊戯王の場合

登場キャラクター

- ・武藤 遊戯
- ・海馬 濑人
- ・アテム

『武藤 遊戯の場合』

1

武藤 遊戯

『君も僕と同じようにもう1人の自分がいるのかい?』

奴良 リクオ（作品：ぬらりひよんの孫）

『ええ、でも妖怪の時と人間の時どちらも僕です』

2

武藤 遊戯

『僕だけかと思つたら存外もう1人の自分がいる人は多いんだね。』

赤夜 萌香（作品：ロザリオとバンパイア）

『確かにね、でも彼女はとっても頼りになるんだよ!』

3

進藤 ヒカル（作品：ヒカルの碁）

『お互い変な幽霊に取り憑かれちまつたな。』

武藤 遊戯

『確かに彼に出会ったから色々あつたけど、どれも今の僕を作っている大切なものなんだ。』

4

男鹿 辰巳（作品：べるぜバブ）

『カードゲームかオレも王臣紋を使ったカードゲームを作ったもんだぜ。』

武藤 遊戯

『男鹿くんが作つたカードゲームか。一度、遊んでみたいな！』

5

武藤 遊戯

『僕の黒の魔術師ブラックマジシャン』

『僕の黒の魔術師はとても強い魔法使いだ！ そう簡単にはやられ

ないよ！』

アスター（作品：ブラッククローバー）

『俺だつて、”黒の暴牛”の1員として負ける気はないぞ！』

『海馬 瀬人の場合』

1
海馬 瀬人

『ほう、中川財閥の御曹司はどんな人物かと思つたが、思つていたよりも若いな。』

中川 圭一（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

『高校生の君に言われたくはないなあ。』

2

玉藻（作品：地獄先生ぬくべく）

『人間の技術で冥界に行くだと!? そんなことを可能にしたのか!?』

海馬 濑人

『オレは奴とまた鬭えるというなら冥界だろうと地獄であろうと行つてやる!』

3

海馬 濑人

『オレは愚かな兄だつた。モクバにはたくさん迷惑をかけた：！』

うちは サスケ（作品：NARUTO）

『ならば、もう2度と過ちを繰り返さないことだ。その弟に復讐心が芽生えないようにな・・・』

!

4

ゴン＝フリークス（作品：HUNTER×HUNTER）

『おじさんつて遊園地を作つてるんだよね？ あいつか行つてみた
いなあ！』

海馬 濑人

『いつでも来るがいい。・・・ただオレはおじさんなどと言われる年齢ではないぞ。』

5

ダイ（作品：DRAGON QUEST—ダイの大冒険—）

『凄まじい気迫だ、そんなドラゴン見たことないぞ！』

海馬瀬人

『当然だ！ブルーアイズホワイトドラゴン青眼の白龍は俺のこのデッキにのみ存在する、最強のドラゴンなのだからな！』

『アテムの場合』

1

アテム

『お互いにいい相棒ができたようだな。』

藤原佐為（作品：ヒカルの碁）

『ええ、見ていて少し危なつかしいですが、とても頼りになります。』

す。

2

アテム

『虫と聞くと少し嫌な思い出があるんだが・・・』

サニー（作品：トリコ）

『俺もだぜ！今思い出しても鳥肌が立つぞ！』

3

アテム

『貴様はいくつの命をその手にかけた!!』

夜神 月（作品：DEATH NOTE）

『お前も闇の審判と名乗り、似たようなことをしているんだろ
う？お互い様だ。』

4

黒崎 一護（作品：BLEACH）

『アンタを魂葬した場合、その魂は戸_ノ魂_{ウルソサエティ}界に行くのか？』

アテム

『興味はあるが・オレは仲間達の元に帰るよ。それがオレにとつ
て1番だ。』

5

アテム

『7つの宝玉を捧げて、召喚する龍か。召喚条件が難しいがその
分得られる効果は凄まじいな。』

孫 悟空（作品：DRAGONBALL）

『オメエの使ってるオシリスってやつもすげえ龍だなあ。神_{シェンロン}龍_{ロン}』

にも負けてねえんじやねえか、？』

家庭教師ヒットマンリボーンの場合

・キャラクター

・沢田 綱吉
・リボーン
・雲雀 恭弥

『沢田 綱吉の場合』

1

ジヨルノ・ジヨバーナ（作品：ジヨジヨの奇妙な冒険）

『その歳でマフィアのボスとは…君という人物の凄さがよくわかる。』

沢田 綱吉

『えっと、まだマフィアになると決まったわけじやないですからね？』

2

星矢（作品：聖闘士星矢）

『大空の名を持つ守護者か、俺たちの守護星座と似てるものなのかな？』

沢田 綱吉

『どうなんだろう。大空以外にも大地の属性もあるし、もしかしたら星座もあるのかな？』

3

脳噛 ネウロ（作品：魔人探偵脳噛ネウロ）

『死ぬ気になれば、力を発揮するか、よし！ならば我輩が死ぬ氣にさせるのに手伝つてやろう！』

沢田 綱吉

『ネ、ネウロ？ なんでそんなに笑顔なの？ ちよ、ちよつと？』

4

飛影（作品：幽☆遊☆白書）

『死ぬ気の炎だと、魔界の炎とどちらが強いか試してみるか？』

沢田 綱吉

『俺の死ぬ気は希望から生まれる。そんなことで力比べをする気にはならない。』

5

奴良 リクオ（作品：ぬらりひょんの孫）

『組の頭として、俺の組の者に手を出す奴は許さねえさ。 そうだろう、ツナ。』

沢田 綱吉

『ああ、仲間は絶対に失わせない、死ぬ氣で守る！』

『リボーンの場合』

1

リボーン

『オメエの弟子も中々面白そうなやつだな。』

藤原 佐井（作品：ヒカルの碁）

『ええ、ヒカルの囲碁はまだまだ伸び代があります。』

2

潮田 楠（作品：暗殺教室）

『リボーン・・さんは暗殺者なんですよね？』

リボーン

『まあな、それはそうとオメエも中々の素質を持つてるな。』

3

リボーン

『お前が例の掃除屋か、銃の腕前の噂はイタリアにまで届いてるぜ。』

沢羽 涼（作品：シティハンター）

『そりやどうも。お前さんみたいな赤ん坊にまで知られてるとはな。』

4

鶴野 鳴介（作品：地獄先生ぬくべく）

『赤ん坊にする呪いか、聞いたことがないな』

リボーン

『心配すんな、この体もそう悪いもんじやねえしな。』

5

孫悟空（作品：DORAI GOON BALL）

『落ちこぼれだつて、必死に努力すればエリートを超えるかもよ

？』

リボーン

『ああ、現に俺はそういう奴を知ってるぞ。』

《雲雀 恭弥の場合》

1

雲雀 恭弥

『その赤ん坊、君も子供のくせになかなか面白いね。噛み殺したくなる。』

則巻 アラレ（作品：Dr. スランプ）

『あちしもガツちゃんもすんごく強いよー！それより雲雀一鬼ごっこして遊ぼー!!』

2

邦枝 葵（作品：べるぜバブ）

『あなたが雲雀くんね。風紀を守っているって聞いて話してみたいたと思っていたの。』

雲雀 恭弥

『そう？僕は君を噛み殺したいと思つてゐるけどね。』

3

雲雀 恭弥

『群れるのは嫌いなんだ。ジンマシンが出る』
志々雄 真実（作品：るろうに剣心）

『所詮、力を示すには個の力が全てだからな。』

4

雲雀 恭弥

『さくら・・・嫌な思い出があるから近づかないでもらえる?』

春野 さくら

『な!?人の名前を聞いて嫌な気持ちになるつてどういうことよ

!?

5

雲雀 恭弥

『君、噛みこたえがありそうだね。』

ゼブラ（作品：トリコ）

『てめえ、調子に乗るんじゃあねえぞ・・・!!』

シャーマンキングの場合 ☆

- ・キヤラクター
- ・麻倉 葉
- ・葉月 アンナ
- ・ハオ

『麻倉 葉の場合』

1

麻倉 葉

『オイラの仲間に恋人が幽霊の医者がうちにいるぞ』
モンキー・D・ルフィ（作品：ONE PIECE）
『俺にもトナカイの医者がいるぞ!!』

2

麻倉 葉

「靈にゆかりのものがあるならお前もオーバーソウルできるかも
な。」

進藤 ヒカル（作品：ヒカルの碁）

「サイの場合ゆかりがあるのは囲碁……なんか戦いに向かなさそ
うだな……」

3

沢田 綱吉（作品：家庭教師ヒットマンREBORN!!）
『葉の能力はまるで大地のリングみたいだな』

麻倉 葉

『引力を操る力が他にもあるなんてな、驚いたぞ』

4

黒崎 一護（作品：BLEACH）

『阿弥陀丸は斬月のおっさんみたいな感じなのか？』

麻倉 葉

『そうだな、オイラの大切な相棒さ。』

5

うずまき ナルト（作品：NARUTO）

『どれだけ孤独でも、頑張ればいつか報われる。それは俺自身が
実証済みだつてばよ！』

麻倉 葉

『ああ、オイラも色々あつたけどなんとかなつてるしな。』

《恐山 アンナの場合》

1

恐山 アンナ

『心と体を癒したいなら、ふんばり温泉はいかが？』

坂田 銀時（作品：銀魂）

『あ、あの～その旅館。ス、スタンドは出ませんよね？出ないと
言つて！300円あげるから!!』

2

田所 恵（作品：食戟のソーマ）

『私の実家も旅館だから、なんだか親近感が湧くなあ。』

恐山 アンナ

『うちにも板前はいるわ、あなたと性格は真逆だけど。』

3

恐山 アンナ

『あらアンタ色んなものに取り憑かれやすそうね。』

古市 貴之（作品：べるぜバブ）

『ま、まあ、悪魔にはよくティッシュ使つて協力してもらつてるからな・・・』

4

ララ・サタリン・デビルーク（作品：T o L o v e r）

『アンナちゃんつて葉くんの許嫁なんでしょ？羨ましいなあ！』

恐山 アンナ

『そう？許嫁じゃなくても愛さえあれば大丈夫だと思わない？』

5

恐山 アンナ

『今度そつちの温泉に偵察にでも行つてみようかしら？』

湯ノ花 幽奈（作品：ゆらぎ荘の幽奈さん）

『ぜひ来てください！歓迎しますよ!!』

1

ハオの場合

ケンシロウ（作品：北斗の拳）

『兄より優れた弟など存在しない。とある男に言われた言葉だが・・・』

ハオ

『いいな、そのセリフ今度俺もアイツに言つてみようかな。』

2

志々雄 真実（作品：るろうに剣心）

『地獄の業火なら死ぬほど浴びたぜ』

ハオ

『ぬるそうな炎だな。スピリット・オブ・ファイアで本物の業火を味あわせてやるよ。』

3

フリー・ザ（作品：DRAGON BALL）

『戦闘力53万の私に勝てるตとでも？』

ハオ

『ちつちええな、お前。』

4

六氷 透（作品：ムヒヨとロージーの魔法律相談事務所）

『ヒッヒ、魂をくだらんことに使うなよ。』

ハオ

『気に入らないなら、止めてみろよ。お前の魂も喰いがいがありそうだ。』

5
ハオ

『俺は人間が嫌いだぜ。お前なら理解できると思ったがな。』

黒神 めだが（作品：めだかボックス）

『確かに人間は愚かかもしない。だが、私は人間が大好き

だ。』

断章

クリスマスについて各々会話してみた

- ・登場キャラクター

作品：S K E T D A N C E

- ・藤崎 佑介（ボツスン）

- ・鬼塚 一愛（ヒメコ）

- ・笛吹 和義（スイッチ）

セリフ時は○内の名前を使わせていただきます。

作品：斎木楠雄のΨ難

- ・斎木 楠雄

作品：暗殺教室

- ・潮田 渚

+シークレットキャラ計4人

ボツスン

『いやね。クリスマス当日に近所の保育園で

サンタの格好をしてプレゼントを配つてくださいって依頼がスケット団に来て……』

ヒメコ

『うちらはその日、他の依頼片付けなアカンから代わりにやつてくれるのは嬉しいねんけど‥‥‥』

坂田 銀時（verサンタコスチューム）

『そうだぞ、テメーらもつと感謝してチヨコレートパフェ奢るくらいのことはしろよ。』

両津 勘吉（verサンタコスチューム）

『つたく、何でワシがこんなことを‥‥。』

ヒメコ

『なんでアンタらやねん!!』

坂田 銀時

『オイオイ、ひでーこと言つてくれるじやねーか。』

ヒメコ

『いや私も中々ひどいツッコミしてると思うで!?、でも何でアンタらやねん!?絶対アンタらアカンて!・』

スイッチ

【子供に夢を与えるどころか、壊しそうな面子だな。】

坂田 銀時

『んだとつ!?今の時代、本当に必要なものは何か!友情・努力・勝

利とは何かを隅々までに教えてやるよ!』

ヒメコ

『ジャンプ渡す気満々やないかいっ!!』

両津 勘吉

『オイ! 何でワシは不安何だ! 警察だぞ!』

ボツスン

『アンタだからだよ! 警察云々の前にアンタが両津勘吉だからだよ!』

両津 勘吉

『ふざけるな! ちゃんと配るに決まってる!』

スイッチ

【で、実際の所は?】

斎木 楠雄

【これを何か金儲けに利用出来ないか考えてるな。】

両津 勘吉

『そ、そんな訳ないだろ。』

潮田 楚

『あはは、図星なんですね・・・。』

ボツスン

『いや、渚が苦笑いするのもわかるぜ。この2人は絶対に組んじやういけない人間だ。』

ヒメコ

『ほんまやで・・・。あれ? うちらスケット団の代わりやから、あと1人は?』

坂田 銀時

『まあテメーらがそう言うと思つて、サンタにふさわしい人物呼んだいたよ。』

ボツスン

『いや、どうせまともな人じゃねーんだろ?』

両津 勘吉

『そんなことないぞ! 実はもうドアの前に来てもらつてるからな

!

齊木楠雄

【まさつきから心の声が聞こえてたからな。】

坂田銀時

『それでは 3人目のサンタさん
いらっしゃい!!』

潮田
渚

『実際の所どうなんですか、心の声とか聞いてみて?』／ヒソヒソ
斎木 南唯

【いや、おふもと聞えはおともだが・・・】

ガラガラガラ

ケンシロウ（verサンタハツト着用）
『・・・・・・・・・』

ボツスン・ヒメコ・スイツチ・渚
『・・・・・・・・・・・・

L

坂田 銀時

ボツスン・ヒメコ

『「ちょっと待てっ!!』』

両津 勘吉

『さつきから何なんだお前ら!』

ボツスン

『だつから! おかしいんだよ! 色々と!』

坂田 銀時

『何がおかしいだ、今の子供達に本当に必要なのは何か、それは愛だよ。だったら愛の伝道師にサンタ役として来てもらうのが一番いいだろ。』

ヒメコ

『ジャンプ渡すんじやないんかい! ああ、いやそうじやない! そ
うじやなくて……』

ケンシロウ

『……おい坂田、両津やつぱりこの役は俺には似合わん。
お前達だけでやつてくれ。俺は出来る限り他の事をする。』

潮田 渚

『すげい完璧な大人の回答してきた!!』

スイッチ

【まだ、ケンシロウさんが行つた方がずっとといい気がしてきたぞ】

ヒメコ

『せやな、外見はボツスンと斎木に何とかしてもらえればいけそ
うな気がしてきたわ!』

両津 勘吉

『待てっ!! おまえら! 外見変えればいいのか!?』

ボツスン

『あんたらはダメなんだよっ! 外見も内面も!』

坂田 銀時

『ふざけんなつ！天然パーマは最も神聖な髪の毛の1つなんだぞ！』

斎木 楠雄

【内面はダメと認めるんだな】

両津 勘吉

『ふざけんなあ！せつかく部長の監視から外れると思つてやろうとしてんのにつ!!』

潮田 潤

『本音出てきたあ!?』



『そこまでですっ！』

坂田 銀時

『だ、誰だお前はつ！』



『皆さんのが誰をサンタにするか迷うのも無理はありません！サンタとは子供達に夢と希望を与える存在！いわばプロキュアや仮面アイダーのような存在です！』

ヒメコ

『案外身近な存在やないか！』

?????

『ですがつ！もう安心です！そんなサンタにふさわしい人物を連れきましたっ!!』

両津 勘吉

『なんだとつ!?』

?????

『そう、それは・・・・』

殺せんせー（ｖｅサンタコスチユーム）

『私ですっ！！！』

ヒメ口

『そんでどうする？やつぱり、よびつつい体は隠した方がええよな？』

ボツスン

『バカいえ！この筋肉がいいんだろうが！男の夢だろうがつ！』

斎木 楠雄

【普通のこと言つてるのに、変な台詞に聞こえるな。】

スイッチ

【BでL的なやつだな】

ボツスン

『ちつげーよ！』

坂田 銀時

『オイ！てめーらしい加減にしろよつ！』

両津 勘吉

『そうだつ！ここにいる全員しょびくぞ！』

ケンシロウ

『坂田、両津落ち着け。』

ヒメ口

『ともかく、まずは子供に怖がられへんようせんとな。』

ボツスン

『そうだなスイッチ子供に怖がられないような格好調べてみてくれないか。』

スイッチ

【アイアイ】

ヒメコ

『キヤラ付けどないなつとんねん!』

潮田 渚

『そうですね、とりあえず怖がられない格好と言えば・・・・・』

殺せんせー

『無視しないでくださいよ〜〜〜!!!泣』

ヒメコ

『うわ!びっくりした!』

殺せんせー

『無視はよくないですよ!ツツコミはともかく無視はよくないですよ!、泣きますよ?先生結構いい歳ですけど泣きますよ!泣』

斎木 楠雄

【もう、泣いてんじやねーか】

ボツスン

『いや、悪いけどこの中だと断然、殺せんせーが不適任なんだよ。』

殺せんせー

『なんでですかっ!こんなにサンタに恋い焦がれてるというのにつ!!』

坂田 銀時

『メリーカリスマスって言つてサンタの格好した全身真っ黄色の触手生えてるモンスターが入ってきてみろ。』

ヒメコ

『完全にトラウマもんやで・・・・』

殺せんせー

『ちょ、 ちょっと酷すぎじゃありませんかっ!?』

潮田 渚

『ま、 まあその姿はどうしようもないんじゃないかな・・・』

両津 勘吉

『そういう訳だ、 あまりゴタゴタ言つてるとたこ焼きにするぞ』
殺せんせー

『そういう両津さんだつて！ 何が警察官ですかっ！』
絶対に犯罪者側の人間でしょがっ!!

両津 勘吉

『なんだとつ!!』

坂田 銀時

『まあまあ落ち着いて、 どつちも正論だから・・・・』

殺せんせー

『坂田さんもですよ！ なんですかっ!? その目死んだ魚の目みたい
じやないですかっ!?』

坂田 銀時

『んだとつ!? ゴラア!?』

潮田 渚

『ちよつ！ 殺せんせー、 銀さん、 両さん落ち着いて！』

ボツスン

『おいおい、 ケンカすんなよ!?』

スイツチ

【イイゾイイゾーモットヤレー】

ヒメコ

『ちやかすなや！ ちよつやめーや！ それ以上やるんなら私もやつ
たろうか！』

ボツスン

『なんでだよつ!? 余計ややこしくなつてんじやねーか！』

ワイワイ／ガヤガヤ／ギャーギャー

ケンシロウ

『……………』

斎木 楠雄

【……………帰つてもいいか?】

結局、渚のクラスメイト達と楠雄で保育園の子達にプレゼントを配ることになったそうです。

斎木 楠雄

【おい、なんで僕もカウントされてるんだ】

スイッチ

【そりゃいえばその保育園の当日の給食にコーヒー、ゼリーが出るそ
うだが…………】

斎木 楠雄

【さて、とつと行くぞこのプレゼントを持つてけばいいのか?】

ヒメコ

『軽っ!!』

・シークレットキヤラ

・坂田 銀時（作品：銀魂）

・両津 勘吉（作品：こちら葛飾区亀有公園前派出所）

・ケンシロウ（作品：北斗の拳）
・殺せんせー（作品：暗殺教室）

正月にて各々会話してみた

登場キャラクター

作品：ニセコイ

・桐崎 千棘

作品：いちご100%

・東城 綾

作品：To Love

・ララ・サタリン・デビルーカ

(セリフ時はララと略させていただきます)

作品：べるぜバブ

・邦枝 葵

+シークレットキャラ5人

とある商店街の通り道にて、ある少女がとある人物達との待ち合わせ場所に来ていた。

☒☒（着物着用）

『…………ふう。ちょっと早く来すぎたかなあ。』

☒☒（着物着用）

『あ、千棘ちゃんこつち、こつち！』

桐崎 千棘

『あ、綾ちゃん！あけましておめでとう！』

東城 綾

『あけましておめでとう、着物似合つてるよ。』

桐崎 千棘

『えへへ／＼ありがとう！綾ちゃんも似合つてるよ！』

東城 綾

『あ、ありがとう／＼ちょっと照れくさいな・・・』

????
(着物着用)

『おーい！』

桐崎 千棘

『あ、ララちゃん！』

ララ

『あけましておめでとうーー！』

東城・桐崎

『あけましておめでとうーー！』

ララ

『わあ!! 2人とも着物似合つてるね!!』

東城 綾

『ありがとうございます、ララちゃんも似合つてるよ。』

ララ

『えへへ、ありがとう!!』

桐崎 千棘

『それじゃあ、行こつか！』

ララ

『それにしても、リトや美柑達とも一緒に来たかつたなあ～』

桐崎 千棘

『鵜もクロードに呼ばれてるって言って、来れなかつたのよねー』

東城 綾

『私のところも大体そんな感じかな。みんな家の手伝いだつたりで忙しいみたい。』

桐崎 千棘

『まあ、残念ではあるけどたまには女達だけで楽しんじやおう！』

東城 綾

『うん、そうだね！』

ララ

『よお～しつ！しつかり楽しもう～！』

とある神社内にて・・・・・

お正月なのでいつもは静けさが漂う神社も屋台が出ていたりして、老若男女たくさんの人達で賑わっている。そんななか境内で巫女服に包まれた女性が箒で掃除していた。

????
(ver巫女服)

『ふう、やつぱりお正月の時期は大変ね・・・・。』

ララ

『おーい！葵～!!』

邦枝 葵

『みんな！あけましておめでとう。』

ララ・東城・桐崎

『『『あけましておめでとう!!』』』

桐崎 千棘

『わあ～!!葵ちゃん巫女服かわいい!!』

邦枝 葵

『そ、 そうかな? // 普段着ているからよくわかんないけど』

東城 綾

『うん、 とつてもかわいいよ。』

ララ

『それにしても本当に人が多いねえ～。』

邦枝 葵

『まあ、 お正月だしね。 神社はやつぱり忙しくなるよ。』

桐崎 千棘

『でも、 本当に大変じゃない？ 人手とか足りてるの？』

邦枝 葵

『一応、手伝いに来てくれる人達がいるんだけど・・・・。』

『ギャく〜!!』

東城 綾

『な、何今のは声!?』

邦枝 葵

『はあ、またあいつらね・・・』

☒

『新年早々喧嘩をかけてくるとは何様なんだ、お前達は。』

男性

☒
『い、いや悪かつたほんとうに悪かつたから・・・』

『そんなあなたにはこちらの御守り、この色鮮やかな青色であなたの心も晴れやかになるでしょう。』

☒

『ダブだ』

男性

『いや、返り血で真っ赤に染まつてゐんですけど!?』



『御守り減り込みパンチっ!!』／ドゴオオ

男性

『ぐはあつ!!』



『安心しな、その御守りを受け取ったお前の今年の運勢は・・・』



『大吉だ!』



『ダブだつ!!』



『いや、大凶だとと思うんだけど。』



『何言つてんだ、古市そんなこと言つたら御守りに失礼だら一
が。』

古市 貴之

『その御守りごと人を殴つてるお前の方が失礼なんですけど。』

邦枝 葵

『ちょっと男鹿、古市!』／タツタタ

男鹿 辰巳

『おう、邦枝。』

邦枝 葵

『おう、じゃないわよっ!!』

東城 綾

『お手伝いさんて男鹿君達のことだつたんだ!』

男鹿 辰巳

『お、何だお前らも来てたのか?』

古市 貴之

『なにつ!?』

ララ

『男鹿、古市あけましておめでとう~!』

古市 貴之

『(やべ~!!露出もいいがやつぱり清楚きものというのも身体の
ラインが出ていいもんだよっ!!ララ先輩も東城先輩も出るどこ出で
るから!) あけましておめでとうございます。／キリツ』

男鹿 辰巳

『あげぽよー。』

邦枝 葵

『ちゃんと挨拶しなさいよ・・・』

桐崎 千棘

『そつちの変態は何か失礼なこと考えてない!?』

東城 綾

『ベルちゃんもあけましておめでとう。』

ベル坊

『アイ！』

邦枝 葵

『それで、一応聞いておくけど何で、男鹿の足元に人が転がっているわけ？』

みると男鹿の足元には髪型やら服装が奇抜な男、俗に言う不良という奴が転がっている。それも1人ではなく数十人近くがその状態になっている

男鹿 辰巳

『いやあ、こいつらが何か不幸そうな顔つきだったからちょっと御守りの力を授けてやろうと思つただけだ。』

古市 貴之

『いや！正確に言うとー、こいつらが女の子にしつこく付きまとつてたから男鹿が懲らしめただけなんです！』

邦枝 葵

『……はあ、ならまあいいけど、いやよくないけど……。』

東城 綾

『どうか、御守り関係あるのかな……。』

古市 貴之

『いえ、全然関係ないです……。』

ララ

『でも、いいーじやん！賑やかになつて！』

☒☒

『ここにもいなか・・・・・』

桐崎 千棘

『ん？ねえあれって・・・・・』

ララ

『あ！おーい！ぬくべぐ!!』

鶴野 鳴介

『ん？お前たちか！あけましておめでとう！』

女性陣

『『あけましておめでとうござります！』』

男鹿 辰巳

『あけおめ』

古市 貴之

『ことよろです』

べる坊

『ダブツ！』

鶴野 鳴介

『お前たちちゃんと言えないのか・・・・・』

男鹿 辰巳

『それよりあれだお年玉とかくれ。』

邦枝 葵

『ちよつと男鹿！失礼でしょ！』

男鹿 辰巳

『俺にじゃねえ！ベル坊にだよ！』

邦枝 葵

『あ、ああベルちゃんにか・・・・・』

鶴野 鳴介

『おう！いいぞ！何ならお前達にもあげるぞ！』

桐崎 千棘

『ええ！本当！』

東城 綾

『そ、そんなわざわざいいですよ！』

鶴野 鳴介

『子供が遠慮何てするんじやあない！ほら、大切に使えよ！』

邦枝・東城・桐崎

『ありがとうございます！』

ララ

『ありがとうございます！』

男鹿 辰巳

『ありがとな、ほらベル坊。』

ベル坊

『ダブだー！！・・・・・・アイ？』

桐崎 千棘

『ん？どうしたの？』

男鹿 辰巳

『いや、100円しか入ってないんだけど・・・・』

女性陣（ララ以外）

『『『え？』』』

邦枝 葵

『そ、それは本当なんですか？』

鶴野 鳴介

『ああ、本当だぞ。お前らも無駄遣いするんじやがないぞ！』

鶴野・ララ以外全員

『・・・・・・・・・』

東城 綾

『こ、これは・・・・』

桐崎 千棘

『その・・・何と言うか・・・』

ララ

『ぬくべく先生つてビンボーなんだね！』

鶴野 鳴介

『グハアつ!!』

桐崎 千棘

『ちょー・ララちゃん！本当のこと言つちや失礼でしょ！』

鶴野 鳴介

『桐崎！お前も失礼だからな!?』

東城 綾

『あ、あのやつぱりお返しします！私ももう子供じやあないので
！』

邦枝 葵

『わ、私も子供という年でもないですし！』

桐崎 千棘

『わ、私も子供扱いされるのに、苦手なのよね～！』

ララ

『私もお姉さんだからね～！』

鶴野 鳴介

『お前達!?そのやさしさはやさしさじやないぞ！』

男鹿 辰巳

『・・・・・悪かつたな。』

ベル坊

『ダブ・・・・。』

鶴野 鳴介

『お前達はその温かい目をやめろ！』というか男鹿！お前も俺のこ
とを言えた口じやないだろつ！』

男鹿
辰巳

『うるせーよつ！ちょっと俺も同じかもなって思つたけれども
！』

邦枝
葵

『ちよつと2人とも喧嘩しないで！』

『あ、あはは・・・・・・・・・・・・・・・・あれ?』

ラ
ラ

——
ん？ 紅ちゃんとこしたの？

東城綾『いや…………古市君は?』

桐崎
千棘

「あれ！ そういうときはいつの間にかいな！」

男鹿
辰巳

「あ？ 古市？ どうせあれだろべん・・・」

『お手洗い！お手洗いに行つたのかも知れないわね！』

鵠野
鳴介

・・・・・いや、もしかしたら違うかもしない。』

東城綾

『どういうことですか?』

鶴野
鳴介

『実は俺がここに来たのは初詣のためじやあないんだ。』

ララ

『え、 そうなの!?』

鶴野 鳴介

『ああ、 この近くに邪悪な靈力に似た何かを感じてな、 だが中々その正体を掴めないからもう去つたものだと思つていたんだが・・・。』

邦枝 葵

『じゃあ！ 古市はそいつに連れ去られた可能性が！』

鶴野 鳴介

『ああ、 あるかもしれん。』

桐崎 千棘

『大変じゃない！』

ララ

『みんなで手分けして探さないと！』

男鹿 辰巳

『いや、 だからきつとしようべ・・・・・。』

邦枝 葵

『その下りもういいから！ 探しにいくわよ！』

・・・・・・・・・

男鹿 辰巳

『ふ、古市ーー!!』

古市

『・・・・・・・・・・・・』

その後全員で捜索した結果、神社にある林の奥で全身を墨で落書きされた古市が半裸の状態でいるのが見つかった

男鹿 辰巳

『お、お前せつかくの正月なのにつーこんな扱いでいいのかよつ!!』

ララ

『古市は大丈夫なの!?』

鶴野 鳴介

『・・・大丈夫だ! 気を失つてるだけだ!』

邦枝 葵

『やつぱり、鶴野さんが言つていた邪悪な靈力つてやつなんじやあ・・・・・』

桐崎 千棘

『お、お化け!?お化けはやめてよつ!』

東城 綾

『わ、私も怖いのはちょっと無理です・・・。』

一体誰が何の目的で古市をこんな姿にしたのか不安と恐怖から全員の間に沈黙が走る。その時だった・・・

男鹿・邦枝・鶴野

『!!上つ!!』

魔力、靈力を感じとれる者達が一斉に声を上げる。それに続くよう他のメンバーの視線も自然と上を向いた。そしてそこにいたのは・・・



『ククツ、やけに魔力が多いと思つたらお前達か・・・』

鶴野 鳴介

『ネ、ネウロ!?』

ネウロと言われた人物?はまるで重力に逆らっているように木に対して垂直に立っていた

邦枝 葵

『邪悪な靈力の正体はネウロさんだつたんですか!?』

脳噛 ネウロ

『ふむ、魔力が我輩の体から漏れていたか。』

東城 綾

『で、でも何でネウロさんはここに?』

桐崎 千棘

『初詣つて、柄でもないでしょあんた。』

幽霊でないとわかり安心したのか両名とも会話に参加しだす

脳噛 ネウロ

『人間達を観察していたのだ。この大量の人間の内、誰かが極上の謎を生み出すかも知れないと思つてな。そう思つていたら少しばかり気分が高揚して魔力を出してしまつたようだ。』

鶴野 鳴介

『なんて紛らわしい・・・・・。』

ララ

『うーん・・・・・そだ！ネウロも一緒に初詣に参加しようよ！』

脳噛 ネウロ

『・・・・・それは我輩にメリットがあるのか？』

ララ

『あるよー！だつて観察したいんだつたらもつと近くで見てみようよ！その方がもつと色んなことがわかるよ！だから、ね？ネウロも初詣してみよう！』

ネウロ

『・・・・・ふむ、まあいいだろ。この後の予定も特にないしな。』

ララ

『やつたー!!』

男鹿 辰巳

『なあ、あいつつて割とすぐくないか？』／ヒソヒソ

東城 綾

『うん、誰に対してもあんなに接することができるのは本当にす

『ごいと思う』／ヒソヒソ

桐崎 千棘

『それがララちゃんの良いところでもあるんだけどね』／ヒソヒ

ソ

ベル坊

『ダブウ』／ヒソヒソ

脳噛 ネウロ

『それで貴様が持っていた謎は解決したのか？』

鶴野 鳴介

『お陰様でなつ!!』

男鹿 辰巳

『おいそれより古市運ぶの手伝えよ、こんな風にしたのお前だ
ろ。』

ベル坊

『ダブ!!』

脳噛 ネウロ

『ふむ、まあ仕方がない。手伝うとするか。』

邦枝 葵

『2人とも何で足だけ持つの!?頭も持つてあげなさいよっ！』

古市 貴之

『・・・・・ いつでえ！』

ララ

『ねーねー、何か神様にお願いするとき手順があるんだよね？』

東城 綾

『うん、二札二拍手一札つて言つて……』

鶴野 鳴介

『お賽銭は1円……いや、奮発して5円にするか！』

桐崎 千棘

『そんなにお金にこまつてるの!?』

何とも不思議な面子が様々な想いを持つて、本殿がある方へと向かい歩いていくのだつた。

・・・・・

男鹿 辰巳

『そういうや、何で古市のことボコッたんだ?』

脳噛 ネウロ

『決まつているだろう……お約束というやつだ。』

男鹿 辰巳

『なるほどっ!!』

古市 貴之

『なるほどじやねえよ!!』

・・・・・また、このツツコミはよく神社内に響いたという

・シークレットキャラ5人

作品：べるぜバブ

・男鹿 辰巳

・ベル坊

(本名：カイゼル・デ・エンペラーナ・ベルゼブブ4世)

・古市 貴之

作品：地獄先生ぬ～べ～

・鶴野 鳴介

作品：魔人探偵脳噛ネウロ

・脳噛 ネウロ

クラス担任を殺すため・始

世の中には様々な学校がある。その土地の地域や文化によつても大きく変わつてくる。

ここ柵ヶ丘中学校も他校と比べ、中々に変わつてゐる。校内学力は常に全国レベル。設備も中学校とは思えないほどである。

だが、1番変わつてゐるのはそんなことではない。この有名校のあるクラスでは

“担任を殺すこと”が正当化されてゐるのだ

・・・

『おいーどこいつた!?

『わかんない！見失つた！』

柵ヶ丘中学校所有の山から川のせせらぎ、夏を知らせる蝉の声や葉がこすれあう音と共に生徒達の声が聞こえてくる一見鬼ごっこをしているのかと思われる声だが

／ダダダダダダツ！

それとともに何故か聞こえてくる銃声。生徒達は飛んでいる何かを一心不乱に狙つてゐる。その狙つてゐるものは動物ではない。か

といつて人間でもまるでその姿形はタコに似ている生物だ。

「ヌルフフフフツ」

やがて飛んでいた生物は木の枝に着地し、その生物が独特の笑い方をする

「皆さん惜しかったですね。黒板のチョークに対先生ナイフを細かく切つて貼り付ける発想はよかつたですが」

「・・・ごめん、僕が次の時間何するかを確認しておけば・・・」

謝罪する生徒。一見女子に見えるが立派な男子生徒

3年E組 11番 潮田渚。（作品：暗殺教室）

「渚のせいじやないよ、次の時間に抜き打ちテストするとは思わなかつたんだし」

その謝罪する渚を咎める緑色の髪を持つた少女

3年E組 7番 茅野 力エデ（作品：暗殺教室）

「それと皆さんチョークを意識しそぎましたね。茅野さんもテスト中はチョークではなく目の前の問題を意識しましょう。」

「うつ、はいわかりました。殺せんせー！」

そしてこの謎の生物。最高速度マツハ20あり、教師でありながら暗殺対象でもあるという正しく謎の存在 通称 殺せんせー（作品：暗殺教室）

「ですが皆さん暗殺技術も発想の思い付きもどんどん上手くなっています！皆さんめげずにこれからも精進していきましょう！」

『『は〜い』』

生徒達は殺せんせーの助言を受け、各々暗殺後の片付けの準備に入る

「あ〜今回も惜しかつたな〜！悔しい〜！」

カエデが悔しさとため息を一緒に出したように発言する

「そうだね、でもだんだんと作戦も上手くなつて行つてる！次の暗殺でころ『ちよ〜〜つと待つた!!』

渚が次の暗殺に向けての意気込みを言おうとしたその時突如大声が響き渡つた。2人は大声の発信源と思われる場所を見ると1人の男子生徒が立つていた

「にゅや？どうしたんですか前原くん？」

大声を出した犯人は3年E組 22番 前原 陽斗

(作品・暗殺教室) 別名 女たらしクソやろう

「なんか今ものすつごいけなされた気がする?!いや、ともかく解散にはまだ早いぜ殺せんせー!!?」

「ほうものすごい自信ですね〜。何か奥の手があるのですか？」

ニヤニヤと笑みを浮かべながら、質問をする殺せんせーそれに対抗するように前原がさらに胸を張りその問いに答える

「オウ！確かに先生はめちゃくちやすいぜ、俺達が束になつても叶わなくくらいな。だけどな同じくらいすごいやつらが相手ならどうだ！」

「同じくらい？」 「すごいやつ？」

前原が言つたことの意味がよくわからず渚とカエデは同じ言葉を繰り返した

「すごいやつら…つまり新しい暗殺者を呼んだということですね？」

殺せんせーが前原の発言から答えを導き出し、それが否かどうかを
問う

「そうーそれにただの暗殺者じゃあないぜ、そいつら全員転校生だ！」

『『転校生!?』』

前原の発言に3年E組の生徒達は驚きを露わにする

「そうー特と見よ！俺が理事長に直接直談判し！拳句靴を舐めようと
してまで、この日1日だけ入学を許可してもらつた！」

「前原くん!?サラッと自分の隠しておくべき黒歴史を暴露してるよ
!?」

「なんでそんな悲しい世渡り術をしてまで入学させたの!?」

前原の思わず発言に渚、カエデ両方のツツコミが炸裂する

「そうまでもして入学させる価値があるってことさー！さあ出てこいこ
の日だけの3年E組の新しき生徒諸君！」

前原の発言と同時に木々の影から5人の影が姿を現した

「ふうやつと登場か、長すぎて眠りそうになつちまつた」

「確かに、オイラも思わず眠りかけちまつたよ」

「いや、葉さん思いつきり寝てましたからね!?」

「ふあくー」

「こつちにも寝そうな人がいるんだけど・・・」

会話からして長い間待っていたのだろうということがわかり、眠そ
うに眉をかくものや欠伸をしているものと様々である

「あ、あなたたちは・・・」

と渚が呟いたところで、5人がそれに気づき各々が発言をする

「よつ！何か楽しそうなことができそだからな乗らせてもらつたぜ！」

気さくに話しかけたその人物の格好は学ラン服に身を包み、まさしく不良のようなりをしている少年 名を浦飯幽助（作品：幽☆遊☆白書）

「ま、オイラは結構無理矢理連れてこられたんだけどな」

ヘッドホンに首から爪をぶら下げているという奇抜な格好だが、言葉はどこかやる気がなく感じさせる 名は 麻倉 葉（作品：シャーマンキング）

「それを言つたら僕だつてリボーンが面白そだから行つてこいなんて言わなかつたら来てないよ・・・」

トホホとうなだれる気の弱そうな少年。名を 沢田 綱吉（作品：家庭教師ヒットマン リボーン）通称 ツナ

「ねえもう帰つていい？」

言葉に麻倉 葉よりもやる気が感じない、むしろ興味がないとすら感じられるテニスラケットケースを背負っている少年 越前リョーマ（作品：テニスの王子様）

「あ、僕も組のみんなにどこいくか行つてないから、色々と言われそุดから帰りたいんだけど・・・」

自分も帰りたいということを主張する、丸眼鏡が印象につく少年 奴良リクオ（作品：ぬらりひょんの孫）

「こいつらがこの日だけの特別暗殺者だああ!!」

「いや、大半の人納得言つてないみたいなんだけど!?」

前原の自信満々な発言とは裏腹に大半が逆の発言をしていることに思わずツツコミを入れる渚

「ヌルフフツなるほど確かに凄腕の方々ばかり集めましたね～そして彼らは今は3年E組の生徒ですか」

笑いと関心を含めたように殺せんせーが発言する

「そう、こいつらは今だけは3年E組の生徒なんだ！つまり殺せんせーはこいつらに手は出せないのさ！」

なるほどと3年E組の生徒達は感心した確かにこれならば殺せんせーに一方的に強力な攻撃をし続けられる・・・と

「ちょー！ちょつと待てよ！」

が、そこに抗議の声が響き渡る

「オイオイ、こつちは喧嘩できるって言うから来たんだぜ!?それなのに一方的に殴つていいいなんて、そんな喧嘩あるか!?」

抗議の声を上げたのは浦飯幽助だつた

「やめだ！やめだ！俺はこの話なかつたことにさせてもらうぜ!
「な?!頼むよ！靴か？靴を舐めればいいのか!?」

「前原くんが間違った世渡り術に味をしめてる!?」

落胆とともに帰ろうとする幽助を必死に食い止めようとする前原それにツツコミを入れる渚と中々にカオスな状態になつてきている。さらにそこに追い打ちをかけるように・・・

「あ、俺もバス」

と越前 リヨーマも参加反対を申し出る

「なつ!?何でだよ越前!?まさかお前も靴を舐めろと!?」

「いやいらないし、てか何で俺呼んだの?」

「うつ・・」

確かに越前はテニスプレイヤーとしては一流だが、戦闘になるとまた話は別である。それは前原もわかつていたことが早い話“ノリ”で呼んだことである

「…わかつた。だけど折角来たんだから、ゆっくりしていけよ！」
「…はあ、わかつたよ」

そう言うと近くの木影に横になる越前。そしてもう一人申し出が
出る

「あ、じやあ僕も見てるだけでいいですか？」

そう発言きたのは奴良 リクオである

「いやお前は十分戦えるだろ!?」

「戦えはしますけど、今はまだ”暗く”なつてないので…」

確かにリクオは戦闘可能である。しかも相当な強さを誇るが、その戦闘可能状態になるにはある条件がいる。それは”夜”になるということである。具体的には周りが闇に包まれればいいのだが、今の時間帯はちょうど放課後になつたばかり、さらに夏ということもあり暗くなるにはまだまだである。よつてリクオも必然的に参加を辞退するしかなくなるのだ

「ほら、もういいだろ今回は終いだ。」

と幽助が発言をする。このままではせつかくの苦労が水の泡となってしまう。それだけは絶対に避けねばと前原が頭をフル回転させる。そしてある一つの方法が思いついた

「あれ、幽助くんそんなに自信ないの？ま、マッハ20だからなう自信を無くすのはしようがないよなー」

「んだとつゴラア！？余裕で当てるやるわ！」

「幽助さんチョロい!?」

幽助のあまりの煽り耐性のなさにツナがツツコミを入れる

「それに全く喧嘩が出来ないというわけでもありませんよ」

「殺せんせー？」

「確かに怪我をさせたら私が出した条件に反してしまう。なので抑え

込むなどして怪我なく君を暗殺不能状態にすればそれで私の勝ちになります。どうですか？これでもまだ喧嘩じゃないと言えますか？

殺せんせーの発言に幽助はニカツと笑い片方の手で作った拳をもう片方の掌に打ち付け笑いながら言つた

「いいぜ！よっぽど喧嘩らしくなってきた！でもあんたがそんな提案するとは思わなかつたぜ、俺達をそのまま帰らせればよかつた方があなたには都合が良かつただろ？」

「ええ確かにその方が私にとつてはよっぽど安全です。が、前原くんがここまでしてくれたのを無下にするのは私の教師としての志に反します。なので沢田くんも麻倉くんもここは1つ参加してくれませんか？」

と残りの気乗りでない2人に殺せんせーは提案する

「お、俺からも頼むこのとうりだ！」

そう言つて前原も頭を下げて懇願する。それに対し沢田綱吉、麻倉葉の両名はお互いに顔を見合わせ

「まあ、折角ここまできたしな」

「え、えっと俺も少しだけなら」

と両名ともやれやれという反応ながら、参加の意思を表明した

「あ、ありがとう！3人とも！よしこれで準備万端だぜ！覚悟しろよ殺せんせー！」

「ヌルフフツ、いいでしよう暗殺がてら3人とも手入れをして差し上げましょう」

前原の発言に対し殺せんせーは受けて立つという意思を見せ、両名の間にはまるで火花が飛び散つているようだ。これに伴い他の3年E組達も盛り上がりを見せる。果たして勝つのはどちらか、やつぱり我らが殺せんせーかそれとも今日限りの3年E組の暗殺者か、このクラス中の盛り上がりは茅野力エデも例外でない。力エデ自信もこの暗殺の行方はどうなるのかドキドキしている。だが、少し周りと反応が違う生徒を見つけその生徒に問いかける

「渚どうしたの？興味あんまり湧いてない？」

渚の様子はどこかおかしい。冷めているというわけでもないが、盛り上がりがつていてるというわけでもない

「あ、カエデ。いや確かにこの暗殺がどうなるな興味はあるよ。でも……」

そこまで言つて渚は空を見上げ……

「本当にこれでいいのかなって……」

「・・・渚？」

そう言つた渚の表情は悲しそうでもあり、不満そうでもある顔だった

た

そんなことはいざ知らず、既に殺せんせー、今日限りの3年E組生徒達は準備が出来ている。それに気づき渚は両名に視線を戻し、それに続いてカエデも視線を戻す。

あたりは静まりかかる

蝉の声も止んだ

これより前代未聞の”暗殺”が始まるー

クラス担任を殺すため・中

浦飯幽助、麻倉葉、沢田綱吉の3人が暗殺を決行すると決まつてからいくつか条件を出したまず幽助の条件が必ず10マンタインマンで行うという条件。残り2人の条件が暗殺時間5分間という時間制限をつけるというものだ。2人は特に乗り気ではないので長引きたくないとのことだ。

「よしじやあ大体決まつたし、最初は俺から行くぜ！」

そう言つて前に出てきたのは浦飯幽助が前に出る

「ヌルフフツ、最初は幽助くんからですか。まあ君の性格上予想はしていましたけどね」

「まあ、あんたとは戦つてみたいと思つてたからな！」

そう言いながらお互いが正面を向き合うかたちになる

「それじやあ準備はいいか？」

「ええ、大丈夫ですよ。」

「それじやあ先手必勝だつ!!」

そう言つて幽助は片方の手を銃の形にしもう一方の手をそれを支えるように添える。するといわゆる銃口にあたるところに青白い光が集まる

「靈丸れいがん!!?」

そう叫んだと同時に球状になつていた青白い光が真っ直ぐと目標、殺せんせーに向かつて飛んで行き、爆発した。これは早くも勝負がついたと思われたーー

「ヌルフフツ」

ーーが、煙がはれると殺せんせーが立つっていた場所にはただ地面に爆発の衝撃で出来た穴があるだけだつた。そして幽助の背後からは笑い声が聞こえた。振り返ると先程まで前方にいた殺せんせーが幽助の後ろにまで回つてきていたのだ

「さすがに速いな、マツハ20は伊達じゃねーな！」

「ヌルフフツ、確かに君の靈丸は当たればひとたまりもないですが、先生は別に君の喧嘩に馬鹿正直に付き合わなくとも、ただ逃げ続ければ

いいのです。それだけで先生の勝ちなのですから」

「ようは難易度最大のシューTINGつてことだろ！はつ！やつてやるよ！」

（とは言つてもどうすつか、あの速さは正直、目で追うのがやつとだし・・・ん？待てよ、そういうやあのタコつて・・・）

「いいこと考えたつーとりあえずもう一発！靈丸!!？」

少し考え始めたと思つたら、満面の笑みを浮かべて2発目の靈丸を殺せんせーに向けて発射した、しかしこれも殺せんせーは樂々かわす「何かいい案でも思いつきましたか？しかし、これだけではー」「あゝあ、やつちまつたな」

「にゅや？」

殺せんせーの言葉を遮るように幽助が大きな声で発言する「アンタ知つてるよな俺は人より違つたもんが見えるつて」

「幽助くん!?な、何を言つてるんですか!?!」

と言いつつも殺せんせーは幽助が何を言つているかの察しているようだ、顔が蒼白し、顔から冷や汗が流れ出る。

「さつきアンタが俺の背後に立つたようによう、今なアンタの背後によういるんだよーー

——髪の長い女の幽霊が

「にゅやああああああああああ!!!!」

!!!!!!

殺せんせーからさつきまでの余裕な表情は消えさり、今は慌てふためく様子が見える。それに乗じて幽助が動いた

「シユ！」

「!?」

「おおー今の一瞬の隙に一気に間合いを詰めた！」

観客の生徒達も幽助の一瞬の動きに感嘆の声が出る「・・・ちなみに麻倉くん、奴良くん」

「ん？諸どうかしたのか？」

「さつき本当に幽霊なんていたの？」

「いや、オイラは見えなかつたな」

「僕も同じです。そんな子は見えませんでした」

「つてことは・・・」

「幽助くんの嘘だと思いますよ」

「だよね、殺せんせー・・・」

明らかに嘘とわかっているのに、それに引っかかってしまう担任に
渚は思わず苦笑してしまう。その殺せんせーは幽助の動きに驚きを
隠せない

（流石、幽助くんいい動きをするしかしまだギリギリかわせ・・・）

「靈丸!!?」

本日3発目の靈丸を発射する。しかし殺せんせーにではなくそのまま
すぐ下の地面に向けて

「!?

そして直撃した地面は穴が空き、殺せんせーは一瞬宙に浮く

「これでもう、すぐには逃げられねーだろ!!?」

そう言いながら幽助は再び青白い光を纏い始める。今度は指で
はなく拳全体に、そして拳を殺せんせーに定め撃ち放つ

「靈光弾!!?」

「そうはさせません!!?」

そう言つて殺せんせーは触手を伸ばし地面に突き刺す。そしてそ
のまま触手を上に勢いよく振り上げる。するとさきほど穴が空いた
時にできた土砂も一緒に宙に上がる

「!?

殺せんせーに向けていた拳はそのまま空中に上がった土砂を殴つ
た。そして土砂は炸裂し土煙が舞い視界が封じられる。そして視界
が見えてきたところで殺せんせーは幽助から大きく距離をとつてい
る

（土砂をクツショーンにして靈光弾の威力を弱めたのか！）

「流石！やるじやねえか！そんじや次は・・・」

「今のは危なかつた、いい暗殺でした。そこまでですよ幽助くん」

「えと、もう5分経ちました」

オズオズと綱吉が時間経過の申告をする

「な!? もう5分経つたのかよ!」

「ええ君の暗殺はここまでです。次は綱吉くんの番ですね。」

「うう・・・何でオレが先なの・・・」

「オイラとじやんけんして負けたじやねーか」

「ただけど・・・」

◆?

「幽助くんたちやつぱりすごいね」

「・・・うん」

(カエデの言う通り、このままみんなに任せれば暗殺が出来るかもしない。
でも・・・)

「・・・ねえ前原くん」

「・・・何だよ、渚」

「前原くんはこれでいいと思う?」

「・・・」

前原は何も言えずただ次の暗殺の準備をしている綱吉をただ傍観していた

◆?

「・・・ヌルフフ」

「?どうしたの殺せんせー?」

「いえただ生徒達の考えが少し変わつてきたようで
??」

「それはさておき、さあ来なさい」

「殺せんせー本当にいいんですか?」

「ええ、子供が大人に遠慮いけませんよ?」

「えっと、それじゃあ……いくぞ。」

先程とは口調や雰囲気が打つて変わりちょうど額のところに炎のようなもの”死ぬ気の炎”が灯る。これこそが沢田綱吉の戦闘スタイル”ハイパー死ぬ気モード”というものだ。さらに両手に付けているグローブからも炎が発生し、それをまるで飛行機のジェットのように噴射し一気に加速する

「にゅ!?

加速と同時に突き出した拳を殺せんせーが右に回避するがー

「これなら!」／ぐるん!

!?

しかしそれを読んでいたかのように綱吉が加速を利用しながら回転し逆の手で裏拳をしてくる

「にゅ!?

しかしこれを紙一重で殺せんせーはかわす

「クツ・・・

そして両者互いに距離を取り相手の様子を伺う

(今のが俗に言う”超直感”というやつですか、いやはや厄介ですねえ)

(やつぱりあの異常な速さ、超直感で読めても拳のスピードが追いつかない)

次はどう攻めるかまた、どう対処するかとお互いに思考を巡らせる

◆?

「・・・・・」

場面変わり前原は渚に言われた言葉がやけに引っかかる複雑な表情になっていた

「なんか深く考えすぎじゃない?」

「・・・どういうことだよりヨーマ」

木陰に寝そべりながら前原に話しかける越前リヨーマ

「普通に考えればいいと思うよ、俺が倒したいのにあいつらに倒され

るのは癪だつて

「!!」

◆?

(俺より速く動けるなら、手数で一気に押す!)

「行くぞ!!」

(さてどれだけ綱吉くんの攻撃を捌けるか、頑張りどころですね)
「さあ来なさい！」

綱吉は再び殺せんせーに向かつて突進し、殺せんせーは両手にながらに両触手を広げて綱吉の攻撃を捌く体制に入る両者が再び激突するその時――

「ちょっと待った!!」

「!!」

そう言つて両者の間に割り込む前原、殺せんせーは体制を辞め綱吉も攻撃を中断し「・・・どうした?」と言い前原の目を見つめる

「ごめん!」

そう言つて前原は頭を下げ5人に対し謝罪する

「やつぱりお前らはすごいよ、お前らなら本当に殺せんせーを殺せるかもしねない」

「・・・」

「でも、見てて思つたんだこのまま殺せんせーを殺されたら俺は後悔する・・・」

「俺たちは俺たちで殺せんせーと育んできた絆がある、だからその絆を証明するために俺たちで殺したいんだ。」

「だからごめん!こつちから頼んでおいて勝手なお願いだとわかつてる!だけど、頼む!俺のことをパシリに使つてもいいから!!」

クラス全員は納得していた、確かに殺せんせーは自分たちで自分たちの力で殺せんせーを殺したい。だが半ば強引に頼んだのに、それを打ち辞めというのに対し5人はそれを許してくれるか――

「オレはそれで大丈夫ですよ」

そう言つた綱吉からは先程の雰囲気と変わつていつものほんわかとしたものに戻つており、額の炎も消えていた

「俺にはやつぱり抵抗がありますし、ここは皆さんの判断に任せます」「オイラもそれで構わないぞ」

「俺は元々参加してないし」

「僕も構いません」

「俺は納得いかぬゾオ!?」

1名ほど何か物申したいようだつたがリクオとリヨーマに口を塞がれて続きが言えなくなつていた

「みんな・・・すまねえ本当にありがとう!!」

前原はもう一度大きく頭を下げた

「私からも 生徒の意見を聞き、許していただきありがとうございます。」

「いや、だから俺はなブウ!!」

「そんな、大丈夫ですよ殺せんせーというか、さつきの態度・・・こうなることわかつてました?」

「いえいえ、私は生徒達の意見を尊重しただけですよ。」

みんなも納得してくれてこれにて一件落着——とその時ドカーン！という音とともに校庭のど真ん中にが穴ができた
「な、なんだ!?」

「やつと見つけたぞ!!」

突然の声の方に目を向けるとある人物が学校の入り口から出てくるのが見える。その人物は先程穴を開けた原因と思われるバズーカを肩に担ぎながら、服装は警察官の格好をし何より特徴的な太眉が目に入る

「ようやく防衛省のやつから情報を聞き出せたからな、間に合つてよかつたぞ」

「あ、あんたは・・・」

問題警察官、金の暴君、人呼んでデストロイヤー両津勘吉（作品：
こち亀）の登場である

「三百億はワシのもんだあー！！」

「にゅやああああああ
!!??」

殺せんせーの本日2度目の絶叫が山の中に響きわたつた

クラス担任を殺すため・終

「な、なぜあなたがここに!?」

バズーカを持ちながらズカズカと校庭に入つてくる両津勘吉に殺せんせーは動搖しながら問い合わせる

「莫大な賞金がかけられているというのにワシが動かない訳ないだろ！ようやくどこにいるかわかつたんだ、そういうわけでー」

そう言つて持つていたバズーカを殺せんせーを狙うよう構えて

「覚悟しろっ!!」

引き金を引きバズーカを発車した

「にゅやあああああ!?」

殺せんせーは咄嗟にかわす。弾は対殺せんせー用物質になつてゐるようだ

「両津さん!?我々、今綺麗に一件落着したところだつたんですけど!?」

「そんなこと知るか！ワシは今来たばかりだからなつ！」

「そんなんあああああ!?」というかなんで私のこと的確に当てに來てるんですか!?一応私のマツハ20ですよ!?

「ワシの勘をなめるなあ！金のためならマツハ20、だろうが30だと当ててやるわ!!」

「なんですよおおおおお!?」

殺せんせーの発言虚しく両津はバズーカを打つのはやめない。またその狙いも的確に殺せんせーを狙つてゐるため殺せんせーもテンパつて汗を吹き出しながら逃げている

「ど、ど、どうしよう渚!?」

茅野力エデは慌てた様子で潮田渚に意見を求める

「と、とにかく両さんを止めよう!!」

「その役目俺たちも手伝うぜ!!」

渚の発言に賛同して浦飯幽助達が名乗り出る

「正直まだ物足りなかつたからな！ちようどいいぜ！」

「で、でも両さんて警察官でしょ？大丈夫なのかなあ？」

「まあなんことしてゐる時点で警察つて言つていいの？」

「あ、あははそれはなんとも……」

沢田綱吉、越前リョーマ、奴良リクオ達もぞろぞろと集まつてくる
「てかりヨーマお前さつきまで寝転がつてたのに急にどうした?」

「あんなにバズーカ打たれちやうるさくて疲れやしないよ」

「確かにあんなに大きな音が出てるからね……」

「みんな、でも大丈夫かな?」

「まあ、大丈夫。なんとかなるさ。いくぞ阿弥陀丸」

麻倉葉はそう言つて右手を前に挙げると、昔の武士の鎧のようなものが葉の肩から腕を覆い、先端には刃が付いてるものが出でてきた

「O・S 阿弥陀丸 v e r 2ー」

「へえそれが靈を自分に憑依させるつて言うオーバーソウルつてやつか」

「正確には違うけど、まあそんな所だ」

「何だか俺の纏まといに似てるな」

「お、リクオもすっかり夜の姿になつてるな!」

というのも奴良リクオは夜になると姿が代わりに目付きが少し銃くなり、髪型も白くなり、後ろに長く伸びるという独特の髪型に変化する

「というかリクオはともかく葉がこんなことするなんて驚いたぜ」

「最初は大丈夫かと思つたけど、あのままじやオイラの方にまで弾が飛んできそしだからな」

「ま、それもそうだな。よし! それじゃあ全員での化け物警察官を止めに行くか!」

「「オウ!!」」

その掛け声と共に転校生全員は両津の元へと向かつて行つた

「……あの越前くん? 君はいいの?」

「と思われたがリョーマだけは向かわずに携帯を開いていた
「もつと効率よくあの人を止める方法があるでしょ」

そう言つてリョーマは携帯を自身の耳にあてるのだった

◆?

「両さんそこまでまだぜ！」

「何!?お前たちもも手伝うのか!仕方ない分け前の100分の1はく
れてやる!」

「ちげーよ!てかどんだけケチなんだ!あんた!」

「オイラ達は両さんを止めに来たんだ」

「何ワシを止めるだと!ふんやれるものならやつてみろ!たつた3人
でワシを止められると思うなよ!」

両津の眼には浦飯幽助、沢田綱吉、麻倉葉の3名しか映っていない
残る1人、奴良リクオはというと

「・・・」

両津の背後に既に立っていた。しかし両津は気づかないこれこそ
が奴良リクオの代名詞と呼べる技「明鏡止水」である。この技を使え
ばいかなるものであつてもリクオの存在を感じることができ
なーー

「そこかー!!」

「うわあああ!!」

両津が突然後ろを向きバズーカを発射した

「な、なんで俺の場所がわかつたんだよ!?」

「なんとなくだ!いつたはずだ!ワシの勘をなめるなどな!」

「妖怪かよ!?いや、妖怪でも感知出来ないんだぞ!?」

「待ちなさい!!」

一部始終を見ていた殺せんせーが両津の前に着地した

「今日限りどうしても、彼らは立派な私の生徒。生徒に手を出すと私
も許しませんよ」

「殺せんせー・・・」

「・・・ふん、ワシだって中学生を傷つけるようなことはせんわ」
「両津さん・・・」

そう腐つても警察官である。いくら金のためとはいえ未来ある若
者を傷つけるようなことをこの両津勘吉はしないのだ。教師と警察
官。内容は違えど子供の安全を守るという点ではなんの相違もな

いー

「最初から言つているだろうワシの狙いはお前だとなー!!」

そう言つて目の前の殺せんせーに向けて再びバズーカを発射した
「にゅやあああ!?ちよ、ちよつと今完全に和解する雰囲気だつたじや
ないですか!?」

「だから生徒には撃たん全部弾はお前に当てるつもりだあ!!」
「そんなああああ!?」

◆?

そんなやりとりを見ていた4人は

「ど、どうする?」

「どうするつて言つてもなあ・・」

「どうか俺撃たれたんだが、いや当たつてないけど・・」

「ともかく最初の予定通り両さんを止めた方がいいんじやないか?」

「そ、そうだな。よし! いくぞみんな!」

そう言つて葉とリクオの2人が残り2人より一步前にでる

「葉! いくら相手が両さんでも流石に刃を向けるのは危ねえ!」

「ああちゃんと腹の方で攻撃する!」

「な! お前ら! どれだけお金が欲しいんだ! がめついぞ!」

「あんたにだけは言われたくないわ!」

そう言いつつ攻撃を仕掛けるリクオと葉。しかし、それを両津は持ち前の勘と反射神経で躱す

「全力でないとはいえ、さすが両さんだな。」

「あれでただの人間てのが恐ろしいぜ。」

両津のあまりのしぶとさに驚きを隠せない両名

「い、今のうちにー」

「逃さんと言つたろう! タコ!」

「ぎやああああああ!!」

隙を見て逃げ出そうとした殺せんせーに再びバズーカを発射する
「もく!! 何なんですかあの人々! 私泣きますよ!? そろそろ本気で泣き
ますよ!? 割といい歳いつてますけど本気で泣きますよー!?」

「や、やばい殺せんせーのテン pari 状態がMAXだ！」

「ちつ！仕方ねえ一気にケリつけるぞ！」

そう言つて幽助は先ほどと同じように指先に青白い光を集め始める

「しょうがない！」

綱吉は一方の手を両津にもう一方の手はそれと対になるような位置に静止しどちらともの両手に火が灯り始める

「あんまり強くやらないように・・」

そういう葉の右腕には先程の鎧のようなものは消えており、その代わりに葉の体の倍以上の大剣を右手に携えている

「仕方ないかっ！」

リクオはいつの間にか出てきた盃を持ち。その中に入っている酒に波紋が浮き出てくる

「な、なんだお前ら何する氣だ!?」

「そろそろ止まりな両さん！」

幽助が言うとともにそれぞれが行動を開始する

「靈丸!!」

「^{イクス}Xバーナー!!」

「スピリットオブソードーフツ!!」

「明鏡止水”桜!!”

青白い光の弾丸が――

直進する赤い炎が――

振り下ろされた大剣が――

青白い炎の波が――

両津に向かつて飛んでくる

「なああにいい!?」

4つの技が両津に当たった瞬間、光と音が一帯を包んだ。ドゴーン

という音とともに強い風が吹き荒ぶ

「お、おいこれやりすぎたんじゃねーか!?」

リクオの発言も、こもつともで、他の3人もちゃんと加減はしたとはいえ少しやりすぎたかもしないと一抹の不安が残る。そして風が止むと両津の立っていたところには土煙と静けさだけが残っていたがー

「お前ら!! やりすぎだろ!!」

「うわああ！」

そんな静けさを吹き飛ばすように両津が土煙から出てきた

「両さん!? 無事なのかよ！ てか何で無事なんだよ!?」

あまりの両津のタフさに全員驚きを隠せないでいた。

「しかしどんだ邪魔をしてくれたな！ おかげであいつを見失つたじやねえか！」

「まだ諦めてなかつたのかよ!?」

「当たり前だ300億だぞ！ 300億！ これを諦めずにいられる一ブ
フォ！」

突然何かが両津の顔に直撃し両津の言葉が遮られた。その直撃したものは渚の足元にまで転がつていき

「テニスボール？」

飛んできた物体がテニスボールだとわかるとそれを打つてきた人物えと全員視線を向ける

「リヨーマくん？」

そこには右手にラケットを持った越前が立っていた

「お前なにするんだ！ お前も邪魔をするのか!?」

「うん。 だけどもう俺は邪魔しないよ。 これからアンタにとつてすつごく厄介な人物が来るから」

「厄介だと？」

「両津～～～！」

両津が首を傾けると同時に声が聞こえてきた
「そ、その声は!!」

階段から上がつてきたその人物は両津と同じ警察官の格好をしているただ違うのは両津よりも年齢は上に見える

「ぶ、ぶ、ぶ、部長～!!」

そう彼こそが怪物両津の天敵。大原大次郎（作品：「ち亀」）である
「仕事中に抜け出すとはいひ度胸してるな!!」
「ち、違うんですよ部長～これにはわ、訳が・・・」
「問答無用!!」

「そんなんああああああああああああ!!!!」

「・・・・・え、ええと一件落着？」

「だ、だな。」

意外な方法で収束した事態に一同はしばし微妙な空気に包まれていた
ちなみに殺せんせーは渚の後ろでしばらくテンパリながら隠れていた

◆?

「本当にうちのバカが迷惑をかけました！お前も頭を下げる！」
「ぐう・・・すみませんでした。」

大原部長が頭を下げ、両津にも頭を下げるよう催促し両津はそれ渡々応じる

「あの両さんをあそこまでさせるなんて」／ヒソヒソ
「大原さんが一番すごいんじゃ・・・」／ヒソヒソ
カエデと渚はヒソヒソ声でそんなことを話しながらその様子を見ていた

「このバカには必ずそれ相応の後始末をさせますので・・・」
「ああそれなのですが少し提案がありまして・・・」

そう言つて殺せんせーが触手を挙げ、その触手を浦飯達に指す
「君たちは両津さんに何かしてほしいことはありますか？」

それに対し浦飯達は

「いや特にはねえな」

「俺もだ。実質手は出されてねえからな」

「どうか思いつきり殴つちやつてましたし・・・」

「お互い様つてやつだな」

「・・・さつきテニスボールをぶつけたことを学校に知らせない以外は
特はない」

と特に両津への罰は特にリクエストはないということを意思表明
した浦飯達。それを確認した殺せんせーはニヤリと笑う

「なら私からやつてほしいことが一つあります」

「い、一体なにをさせるつもりだ!?」

そんな殺せんせーの表情に戸惑いを隠せない両津

「いえそんなに難しいことではありません。むしろあなたの体力なら
1時間で準備出来ると思いますよ」／ニヤア

◆?

「おーい！火ついたかー！」
「いやまだです」
「こつちは点いたよ！うわーきれいー！」
「てか口ウソク2本だけじゃたりたくない？」

「それもそうだな、よしツナ！火付けてくれ！」

「やだよ！そんなことでいちいち死ぬ気になりたくないよ！」

「じゃアリクオの技は？」

「それごと焼き焦げるぞ」

「あはは、流石に焦がすのはちょっと・・・」

◆?

そんな生徒達の様子を少し離れたところで殺せんせーと両津は聞いている

「ありがとうございます両津さん。」

「フンっ！あれらを買つたせいでワシの今月の給料も吹つ飛んだぞ。」

「ええ本当にありがとうございます。」

「・・フン！」

そう言うと両津は一緒に買つてきたであろう缶ビールを開けて殺せんせーに手渡した

「ともかく今日は付き合つてもらうぞ。ただでさえグチが溜まつてるんだ！」

「二応まだ仕事中なのですが・・・まあ少しくらいならいいでしよう。付き合いますよ。」

――夏も終わりに近づきもうすぐ秋がやつてくる。そうすればこの山の木々も紅葉できれいに色付くだろう。しかしE組専用校舎では赤、青、緑の花火によつて一足先にきれいに色付けされたのだった